

**平成31年度において豊かな環境の保全
及び創造に関して講じようとする施策**

平成31年2月

大 阪 府

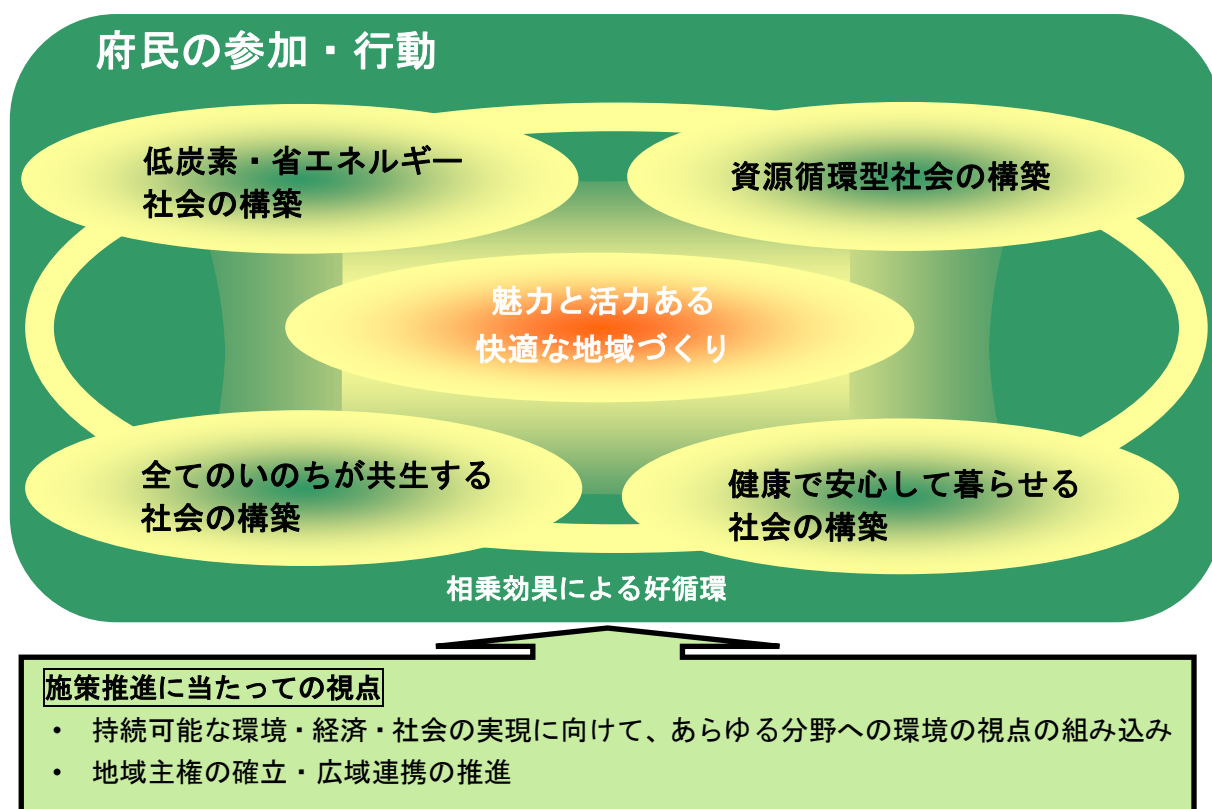
目 次

はじめに	1
I 府民の参加・行動	3
II-1 低炭素・省エネルギー社会の構築	7
II-2 資源循環型社会の構築	14
II-3 全てのいのちが共生する社会の構築	20
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（1） ～ 良好な大気環境を確保するために ～	24
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（2） ～ 良好な水環境を確保するために ～	29
II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（3） ～ 化学物質のリスク管理を推進するために ～	34
III 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進	38
IV 施策推進に当たっての視点	44
V その他（共通的事項）	47

はじめに

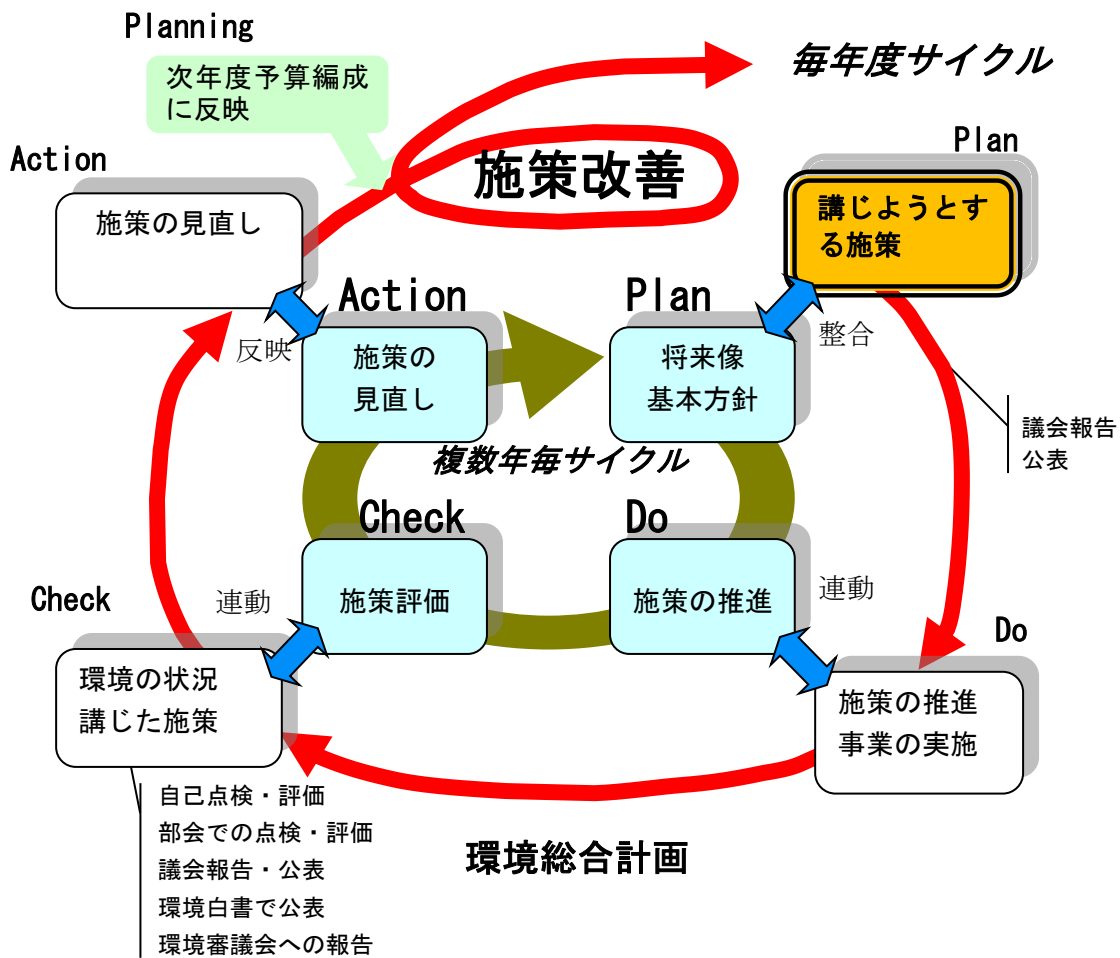
大阪府では、豊かな環境の保全と創造に向けて、「大阪府環境基本条例」を基本とする各種の条例・規則等を制定し、関係法令と併せて適正に運用するとともに、2011(平成23)年3月には「大阪 21 世紀の新環境総合計画 ～府民がつくる暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市～」(以下「環境総合計画」という。)を策定しました。

環境総合計画では、持続可能な環境・経済・社会の実現や地域主権・広域連携といった視점에配慮しながら、「府民の参加・行動」のもと、「低炭素・省エネルギー社会」、「資源循環型社会」、「全てのいのちが共生する社会」、「健康で安心して暮らせる社会」を構築し、「魅力と活力ある快適な地域づくり」を推進することとしています。



計画に定める各分野の関連についての概念図

また、環境総合計画では、毎年度の PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルにより施策・事業の点検・評価を行うとともに、複数年毎 (3～4年) の PDCA サイクルにより計画に掲げた施策の方向や主な施策等の実施効果の検証を行い、急速な社会経済情勢の変化に柔軟に対応するとともに、施策のより効率的、効果的な実施を図ることとしています。



環境施策の進行管理に関する PDCA サイクルの概念図

本報告は、大阪府環境基本条例第9条第2項の規定により、豊かな環境の保全及び創造に関して本府が講じようとする施策をとりまとめたもので、毎年度の PDCA サイクルの「Plan」に該当します。

また、本報告では、環境総合計画に掲げる 2020 年度の目標やその目標に対する現状及び施策の方向を示すとともに、2019 年度の主な施策・事業と取組みを記載しています。

※施策事業名の横の[]内の数字は、2019（平成 31）年度当初予算要求額です。

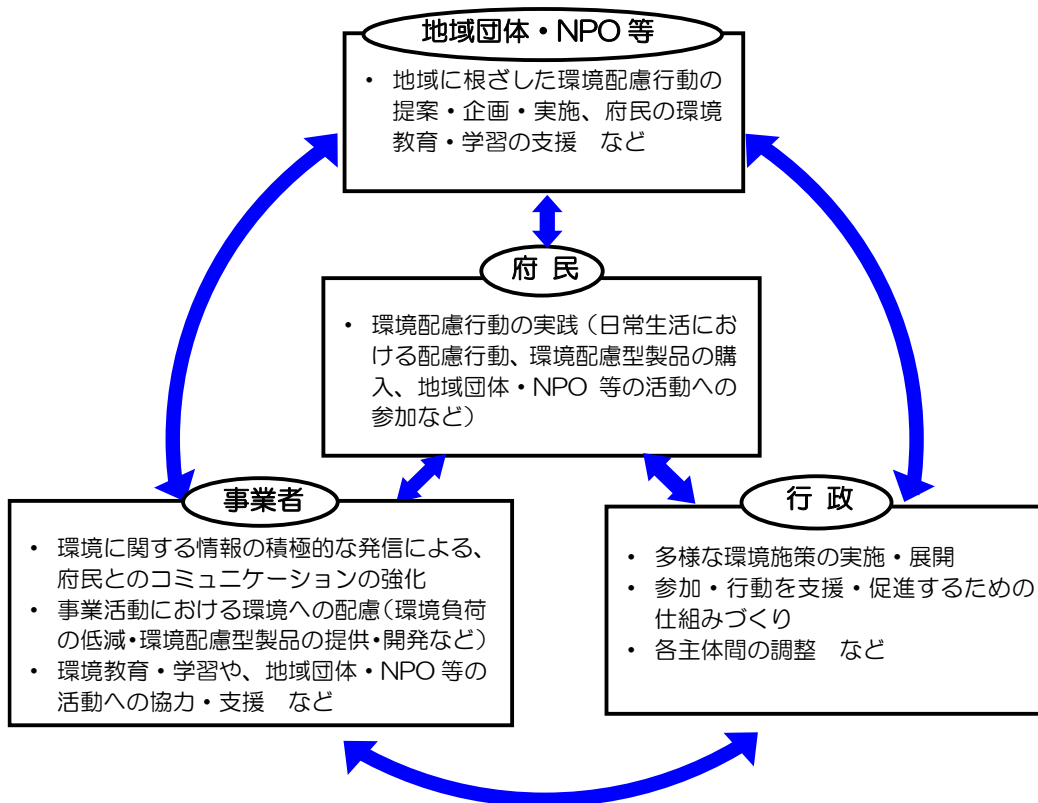
I 府民の参加・行動

～ あらゆる主体の参加・行動を促す大阪府の施策の方向～

かけがえのない地球を守り、私たちの生命を育てている健全で恵み豊かな環境を保全しながら将来に引き継ぐためには、社会を構成するあらゆる主体の参加と行動が必要です。

《あらゆる主体が参加・行動する社会のイメージ》

- 府民、地域団体・NPO、事業者、行政等の各主体が積極的に参加し、自ら行動する社会
- 各主体が相互に連携して行動することにより、相乗的な効果が発揮されている社会



● 施策の方向

あらゆる主体が日常的に環境配慮行動に取り組む社会の実現を目指し、環境問題への気付きと環境配慮行動の拡大に向けた取組みを進めます。

- 効果的な情報発信
- 環境教育・学習の推進
- 行動を支援する仕組みの充実

2019年度の主な施策・事業と取組指標

効果的な情報発信

■環境情報の発信

[- 千円]

(目的)

ホームページやメールマガジンを通して、環境イベントや環境モニタリング情報等を発信し、府民・事業者・地域団体・NPO等の環境保全活動を促進すること。

(内容)

大阪の環境に関する情報のポータルサイトとして、「おおさかの環境ホームページ エコギャラリー」を開設しています。また、環境等イベント情報をお知らせするため、「大阪府環境農林水産イベント情報配信サービス」を配信しています。

最近の大阪の環境に関するイベント情報、水質・大気等の環境モニタリング結果、環境審議会の審議内容、環境白書、条例・計画の情報等、幅広い環境情報について、ホームページ上に速やかに公表するなど積極的に発信することで、府民・事業者・地域団体・NPO等の環境保全活動の促進を図ります。



おおさかの環境ホームページ
エコギャラリーのトップページイメージ

<2019年度の取組指標>

- ・メールマガジン「大阪府環境農林水産イベント情報配信サービス」配信件数 12件
- 【参考】2017年度実績
- ・メールマガジン配信件数 13件
- ・エコギャラリー年間アクセス件数（主なページ） 14万件

【環境農林水産総務課 06-6210-9543】

【エネルギー政策課 06-6210-9287】

環境教育・学習の推進

■環境教育等の推進

[- 千円]

(目的)

府民・事業者等のあらゆる主体が、様々な環境問題を理解し、環境配慮に対する意識の向上を図ること。

(内容)

学校、企業等への各種出前講座や各種施設見学会等を実施するなど、「環境教育等行動計画」に基づき、環境学習と環境保全活動を推進します。



小学校での環境教育

<2019年度の取組指標>

- ・府庁の各部局で取り組む環境教育出前講座等事業数 30事業
- 【参考】2017年度実績
- ・府庁の各部局で取り組む環境教育出前講座等事業数 32事業

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

■環境歴史映像による環境活動促進事業【新規】

[5,184 千円]

(目的)

大阪の環境問題への理解促進を図り、府民の環境配慮行動につなげる
こと。

(内容)

府域の過去の公害問題といった大阪における環境の歴史を学べる若
年層向け環境教育用歴史映像を作成し、インターネットでの公開や環境
教育の担い手に向けた会議等で情報発信します。また、高校の授業での
利用促進を図るため、活用プログラムを作成し配付します。



環境歴史映像で発信する内容例
(約 50 年前の大阪の大気の状態の比較)

<2019 年度の実績指標>

- ・映像の作成、インターネット等での公開
- ・活用プログラムの府内高校への配付

【エネルギー政策課 06-6210-9287】

行動を支援する仕組みの充実

■環境交流パートナーシップ事業

[2,500 千円]

(目的)

環境 NPO 等の活動の活発化や新たな活動の展開に向けた、交流機会を
創出すること。

(内容)

環境 NPO、企業、学校関係者、ボランティア等の幅広い主体が参加す
るセミナーや人材育成講座などを盛り込んだ交流会を実施します。また、
環境 NPO 等の登録や SNS による団体活動等の情報発信を行います。



交流セミナー開催

<2019 年度の実績指標>

- ・交流セミナー・講座等の実施 4回
- 【参考】2017 年度実績
- ・交流セミナー・講座等の実施 4回

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

■笑働 O S A K A の推進

[578 千円]

(目的)

府民・企業・行政等、多様な主体の強みを活かした連携・協働により笑顔あふれる
大阪を実現すること。

(内容)

公共施設の一定区間を、自治会・企業等に清掃・美化活動を行ってもらい、地域コ
ミュニティの活性化、地域への愛着を創出する。

<2019 年度の実績指標>

- ・アドプト・プログラムへの参加団体数及び参加者を 2018 年度と同
等程度にする。
- 【参考】2018 年度
- ・参加団体、参加見込者：637 団体、約 60,000 人

【事業管理室 06-6944-9269】



■農業・農空間に関する活動への府民の参加促進

[451 千円]

(目的)

農業の担い手が減少する中、企業や学生等の幅広い府民参加により、農業・農空間の持つ多様な機能の発揮促進を図ること。

(内容)

府民が気軽に農空間での活動に参加できるように、企業や学生、農空間保全団体等の多様な主体が参画する「おおさか農空間づくりプラットフォーム」を運営し、農空間の魅力や活動等に関する情報の発信、府民と地域のマッチングを支援します。

〈2019 年度の実施指標〉

- ・「おおさか農空間づくりプラットフォーム」の運営
- ・公式 Facebook の運営
- ・「農空間マッチングセッション」の開催 2回



企業 CSR による
遊休農地の利用

【農政室 06-6210-9600】

II-1 低炭素・省エネルギー社会の構築

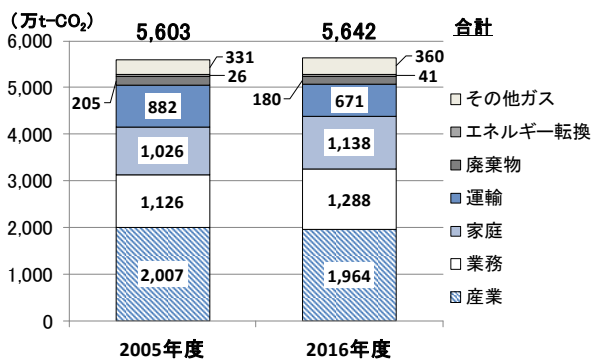
《2020年度の目標》

温室効果ガス排出量※を2005年度比で7%削減する。

※電気の排出係数は関西電力(株)の2012年度の値(0.514kg-CO₂/kWh)を用いて設定

《目標に対する現状》

■府内における2016年度の温室効果ガス排出量は5,642万トンであり、2005年度比で0.7%の増加となっています。



大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

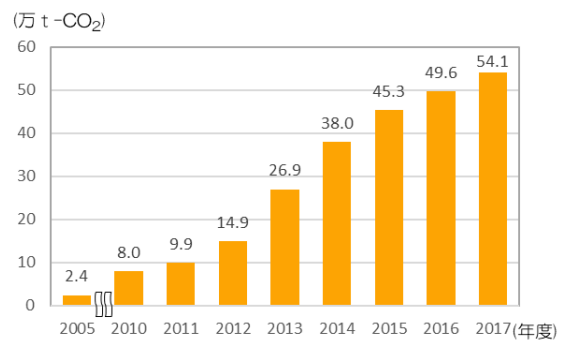
注) 2016年度の排出量は2012年度の電気の排出係数※を用いて算定。
※電気の排出係数とは、電力会社が排出する二酸化炭素排出量を販売電力量で割った値

■府内の2017年度のエコカー(注)保有台数は約123万台(約35%)であり、2009年度と比べ約105万台(約30ポイント)増加しました。

※2009年12月：大阪エコカー普及戦略策定

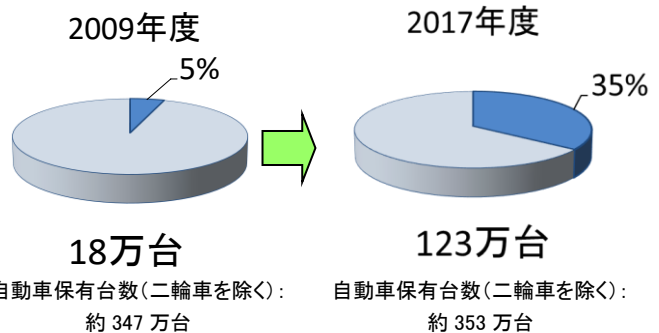
(注)エコカーとは、電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル乗用車、水素エンジン自動車、燃料電池自動車に加えて超低燃費車(2010年度燃費基準+25%達成車または2015年度燃費基準達成車)です。

■府内の2017年度の太陽光発電の導入によるCO₂削減量は約54.1万トンです。



太陽光発電の導入によるCO₂削減量

注)・2012年度の関西電力(株)の電気の排出係数を用いて算定
・設備利用率は調達価格等算定委員会の資料を基に設定



エコカーの普及台数

● 施策の方向

あらゆる要素に「低炭素」の観点を組み入れて、低炭素化に向けた効果的な取組みを促進し、低炭素・省エネルギー社会の構築を目指します。

- 家庭、産業・業務、運輸・交通の低炭素化に向けた取組みの推進
- 再生可能エネルギー等の普及
- 森林整備によるCO₂吸収の促進
- 気候変動の影響への適応、ヒートアイランド対策の推進

2019年度の主な施策・事業と取組指標

低炭素化の推進（家庭）

■省エネ行動の普及啓発事業

[1,090 千円]

（目的）

府民一人ひとりの省エネ行動の実践を促進すること。

（内容）

ホームページ『省エネ生活のすすめ』による省エネ行動メニュー等の情報発信に加え、省エネラベルやグリーン購入の普及活動を実施します。また、大阪府地球温暖化防止活動推進センターと連携し、地球温暖化防止活動推進員の活動支援や「家庭エコ診断」の普及促進に取り組むなど、広く府民に省エネ行動を働きかけていきます。



地球温暖化防止活動推進員
委嘱式の様子

〈2019年度の取組指標〉

- ・地球温暖化防止活動推進員に対する研修会 7回

【参考】2017年度実績

- ・地球温暖化防止活動推進員に対する研修会 4回

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

■家庭の省エネ・エコライフスタイル推進強化事業

[3,753 千円]

（目的）

家庭部門における温室効果ガス削減に向け、各家庭の省エネ行動の取組みの裾野を広げること。

（内容）

地球温暖化防止活動推進員制度を活用し、市町村や民間と連携した家庭への省エネアドバイスを実施できる体制を整備し、府内各地で推進員による個別対応型省エネ相談会を展開します。



省エネ相談会のイメージ

〈2019年度の取組指標〉

- ・省エネ診断件数 800件

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

低炭素化の推進（業務・産業）

■「大阪府温暖化の防止等に関する条例」に基づく指導

[469 千円]

（目的）

エネルギーを多く使用する事業者（特定事業者）の温室効果ガスの排出や人工排熱の抑制等を促進すること。

（内容）

「大阪府温暖化の防止等に関する条例」に基づき、特定事業者（約 900 事業者）に対し、温室効果ガスの排出や人工排熱の抑制等についての対策計画書及び実績報告書の届出を義務付けるとともに、2016 年度から導入した、対策と削減状況を総合的に評価する「評価制度」を運用し、必要な指導・助言を行います。また、他の模範となる特に優れた取組みを行った事業者を「おおさかストップ温暖化賞」として表彰します。



特定事業者への立入調査

〈2019 年度の取組指標〉

- ・特定事業者の温室効果ガス排出量を 2018 年度比 1%削減
- ・特定事業者への立入等現地での調査件数 50 件程度

【参考】

- ・特定事業者の約 7 割を占める、2015 年度から 2017 年度までを計画期間とする事業者について、2016 年度の温室効果ガス排出量の合計は、基準年度である 2014 年度と比較して 1.5%（28.1 万トン-CO₂）削減
- ・特定事業者への立入等現地での調査件数 49 件（2017 年度実績）

【エネルギー政策課 06-6210-9553】

低炭素化の推進（住宅・建築物）

■建築物の環境配慮制度の推進

[2,353 千円]

（目的）

建築主等による建築物の環境配慮に関する取組みの促進を図ること。

（内容）

「大阪府温暖化の防止等に関する条例」に基づき、延べ面積 2,000 m²以上の建築物（特定建築物）を新築等しようとする者（特定建築主）に対し、CO₂削減・省エネ対策等の建築物の環境配慮のための計画書の届出、再生可能エネルギー利用設備の導入検討、広告へのラベルの表示を義務付けています。

さらに、2018 年度から 2,000 m²以上の建築物（非住宅）及び 10,000 m²以上で高さ 60m 超の住宅の新築等をする場合の省エネ基準への適合並びに全ての特定建築物について工事現場へのラベルの表示を義務付けており、これらについて、必要な指導・助言を行います。

また、特に優れた建築物の環境配慮の取組みを行った建築主や設計者を府と大阪市で「おおさか環境にやさしい建築賞」として表彰するとともに受賞者等による講演会を開催します。



表示ラベル
（大阪府建築物環境性能表示）



平成 30 年度おおさか環境にやさしい建築賞大阪府知事賞建物
（和泉市立総合医療センター）

〈2019 年度の取組指標〉

- ・「おおさか環境にやさしい建築賞」の受賞建物の府民向け現地説明会の開催 2 施設 4 回程度

【建築指導室 06-6210-9725】

■ESCO 事業の推進

[1,244 千円]

(目的)

建築物の省エネルギー化、地球温暖化対策、光熱水費の削減を効果的に進めることができる ESCO 事業を、広汎な府有施設を対象に効果的に展開し、さらに大阪府内の市町村や民間ビルへも普及啓発・促進を図ること。

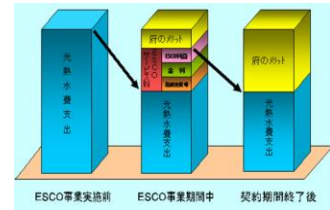
(内容)

「新・大阪府 ESCO アクションプラン (2015 年 2 月策定)」に基づき府有施設へのさらなる ESCO 事業の導入拡大を図ります。ESCO 事業の導入に際しては、複数施設の一括事業化の手法も活用し、省エネ・新エネ設備の導入を効果的に推進します。

また「大阪府市町村 ESCO 会議」の開催を通じ府内市町村に対しても ESCO 事業の導入を広く働きかけます。併せて、建物の省エネ度合いを見える化する「大阪府ビル省エネ度判定制度」を用いて、府内市町村や民間建築物への ESCO 事業の普及促進を図ります。

<2019 年度 of 取組指標>

- ・府有施設における ESCO 事業の新規公募実施
- ・2018 年度事業者選定施設における ESCO 改修工事の実施 (近つ飛鳥博物館、国際会議場、警察署 5 署、府営公園 5 園)
- ・大阪府市町村 ESCO 会議の開催 1 回程度



ESCO 事業の実施スキーム



ESCO 事業の実施効果

【公共建築室 06-6210-9799】

低炭素化の推進 (運輸・交通)

■エコカーの普及促進

[- 千円]

(目的)

2020 年度までに府内の自動車の 2 台に 1 台 (約 180 万台) をエコカーにすることを目標に、エコカーの普及を推進し、温室効果ガス及び自動車排出ガスを削減すること。

(内容)

「エコカーのあふれるまち大阪」の実現に向け、「大阪エコカー協働普及サポートネット」において、民間企業、関係団体、国や市町村と協働し、エコカーの率先導入や啓発活動等の取組みを実施することにより、エコカー普及を促進します。

<2019 年度 of 取組指標>

- ・エコカー展示会・試乗会の開催
 - ・メールマガジン発行回数 12 回
- 【参考】 2017 年度実績
- ・エコカー展示会・試乗会 12 回 (市町村との連携による開催分を含む)
 - ・メールマガジン発行回数 9 回



エコカー展示会

【環境管理室 06-6210-9586】

■水素関連ビジネス創出基盤形成事業

[5,281 千円]

(目的)

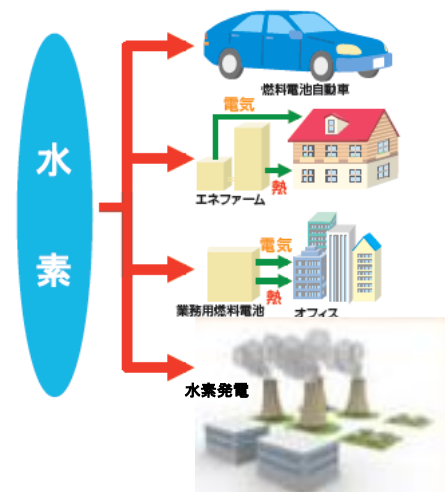
多様な企業集積を誇る大阪の強みを活かしつつ、様々な分野での水素需要の拡大による府内企業の活躍フィールドの創出・拡大を図るとともに、次世代のクリーンなエネルギーとして注目されている水素エネルギーの普及を図ること。

(内容)

- ・「H₂Osaka ビジョン (2015 年度策定)」に沿って、大阪の特色を活かした実証事業の実施等の水素技術の実用化に向けた取組みを推進します。
- ・大阪の水素ショーケース機能の維持・発展のため、先進的な水素プロジェクトを展開する取組みを支援します。
- ・燃料電池 (FC) バスの試乗会を開催し、FC バスの府内導入に向けた機運醸成を図るとともに、水素の普及に向けた啓発を行います。

<2019 年度取組指標>

- ・H₂Osaka ビジョンの具体化に向けた研究会等の開催 7 回
- ・FC フォークリフトに係る関係事業者への周知 8 回
- ・FC バス試乗会の実施に向けた関係者会議の開催 5 回



水素の多様な活用



燃料電池バス

【産業創造課 06-6210-9295】

再生可能エネルギー等の普及

■おおさかスマートエネルギーセンターの運営

[4,262 千円]

(目的)

「再生可能エネルギーの普及拡大」や「エネルギー消費の抑制」などに取り組み、エネルギーの地産地消による新たなエネルギー社会の構築を目指すこと。

(内容)

大阪のエネルギー関連事業の推進拠点である「おおさかスマートエネルギーセンター」において、府民、事業者等からの問合せ・相談にワンストップで対応するとともに、様々な事業を実施します。

【主な事業】

- ・創エネ・省エネ・蓄エネ対策の相談・アドバイス
- ・一定の基準を満たす太陽光発電システム製造者、施工店及び販売店の登録・公表
- ・住宅用太陽光発電等の導入費用の負担軽減に係る低利ソーラークレジット事業者のマッチング
- ・BEMS (ビルエネルギーマネジメントシステム) をはじめとする EMS (エネルギーマネジメントシステム) の普及啓発
- ・ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) の普及啓発
- ・下水熱や地中熱などの未利用エネルギーや再生可能エネルギーの導入可能性に向けた普及啓発
- ・初期投資のかからない手法での省エネ設備改修を提案する事業者を登録・紹介

<2019 年度取組指標>

- ・低利ソーラークレジット事業や省エネ診断などによる総マッチング件数 80 件
- ・省エネセミナーの開催・講演 45 回

【参考】2017 年度実績

- ・低利ソーラークレジット事業や省エネ診断などによる総マッチング件数 122 件
- ・省エネセミナーの開催・講演 主催 3 回、講演 56 回

【エネルギー政策課 06-6210-9254】

森林整備によるCO₂吸収の推進

■アドプトフォレスト制度による企業の森づくり

[- 千円]

(目的)

企業やNPO法人等の参画により、放置された人工林や竹林等荒廃した森林を整備することで、地球温暖化防止や生物多様性の保全等に資すること。

(内容)

大阪府が、事業者等の要望を聞きながら、活動地や活動内容等の提案を行い、活動地となる市町村や大阪府、事業者等の間で、活動内容や役割分担等を含む協定を結びます。その上で、事業者等は対象地域で間伐や植樹、下草刈りなどの森づくり活動を行います。

府は、協定を結ぶ際の調印式の実施や、長期の活動を実施する事業者への感謝状贈呈式等により、事業者等の新規参画や意欲向上を図ります。



企業による森づくり活動の様子

<2019年度取組指標>

・協定を結ぶ際の調印式、長期の活動を実施する事業者への感謝状贈呈式の実施

【参考】 2017年度実績

- ・新規参加事業者 0社
- ・活動地追加 0社
- ・協定更新事業者 7社

【みどり推進室 06-6210-9556】

気候変動の影響への適応の推進

■温暖化「適応」推進事業

[4,590 千円]

(目的)

気候変動の身近な影響への「適応」について、府民・環境NPO等の理解を深めること。

(内容)

環境NPO、市町村等を対象に、「適応」の理解を深め、啓発手法を学ぶ学習会を開催するとともに、環境NPOと協働して府民向けの各種啓発活動を実施します。また、事業者を対象に気候変動による事業活動への影響と適応に関するセミナーを開催します。



啓発活動の様子

<2019年度取組指標>

- ・環境NPO、市町村向け学習会の実施 4回
- ・適応に関する府民向け各種啓発活動の実施 4回
- ・適応に関する事業者向けセミナーの実施 1回

【エネルギー政策課 06-6210-9553】

■ 猛暑対策の推進【新規】

[1,934 千円]

(目的)

猛暑による府民等への影響を軽減すること。

(内容)

猛暑に「気づく」「学ぶ」「行動する」を府民に普及するため、環境省が提供している暑さ指数の活用促進や、暑さ対策に関するセミナー開催等を行います。

〈2019 年度の実施指標〉

- ・ 可搬式電光表示パネルを活用した暑さ指数等の情報提供
- ・ 暑さ対策セミナーの開催：4回
- ・ 企業協賛による啓発物品を活用した暑さ対策の実施促進



暑さ指数と熱中症危険度を関連付けて知らせる電光表示パネル（例）

【エネルギー政策課 06-6210-9553】

ヒートアイランド対策の推進

※ 「ヒートアイランド対策の推進」については、「Ⅲ 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進 暮らしやすい快適な都市環境の確保（ヒートアイランド現象の緩和）」参照

II-2 資源循環型社会の構築

《2020年度の目標》

資源の循環をさらに促進する。

- ・【一般廃棄物】リサイクル等の推進により、最終処分量を32万トン以下とする。
- ・【産業廃棄物】リサイクル等の推進により、最終処分量を37万トン以下とする。

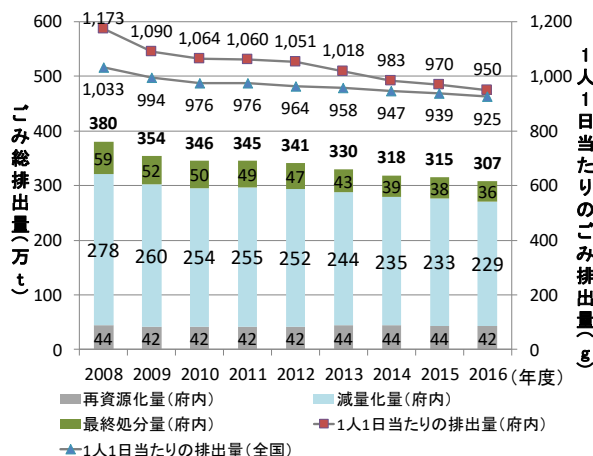
リサイクル社会を実現するための府民行動を拡大する。

- ・リサイクル製品を購入している府民の割合を倍増する。 (2009年度府民アンケート 34.3%)
- ・資源物*を分別している府民の割合を概ね100%にする。 (2009年度府民アンケート 89.4%)

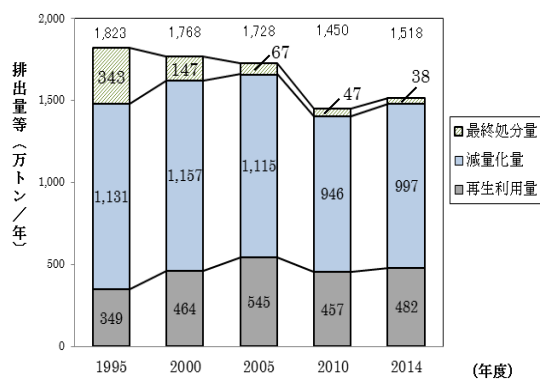
*ペットボトルや空き缶、古紙等。

《目標に対する現状》

- 2016年度に府内から排出された一般廃棄物は307万トン、そのうち再生利用量は42万トン、最終処分量は36万トンとなっています。
- 2014年度に府内から排出された産業廃棄物は1,518万トン、そのうち再生利用量は482万トン、最終処分量は38万トンとなっています。



一般廃棄物の最終処分量等の推移
注) 四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。



産業廃棄物の最終処分量等の推移
注) 四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

- リサイクル製品を購入している府民の割合：43.3% (2017年度)

- 資源物*を分別している府民の割合：95.4% (2017年度)

*ペットボトルや空き缶、古紙等。

注) 府民アンケート調査の対象者は、2015年度より、府政モニターから民間のインターネット調査会社が保有するモニターに変更しました。

●施策の方向

生産・流通、消費、再生・処理、最終処分の各段階における資源の循環に向けた取組みを促進し、資源循環型社会の構築を目指します。

- 再生原料・再生可能資源の利用促進
- 廃棄物排出量の削減
- リサイクル率の向上
- 最終処分量の削減
- 廃棄物の適正処理の徹底

2019 年度の主な施策・事業と取組指標

再生原料・再生可能資源の利用促進、リサイクル率の向上

■循環型社会推進計画の推進

[- 千円]

(目的)

2016 年度に策定した大阪府循環型社会推進計画に定めた 3R や適正処理等に係る目標を達成すること。(目標年度：2020 年度)

(内容)

府民、事業者、行政が連携・協働し、3R や適正処理に取り組みます。
また、新たに設定した『成果を実感できる指標』を活用し、府民、事業者、市町村といった各主体の取組みを促進していきます。

さらに、次期計画策定に向けた検討に着手します。

<2019 年度 of 取組指標>

- ・以下の目標の実現に向けた取組みを実施する。

(一般廃棄物)

2020 年度に一般廃棄物の排出量を 278 万トン、1 人 1 日当たりの生活系ごみ排出量を 403g/人・日に削減するとともに、再生利用率を 15.8% に向上させ、最終処分量を 32 万トンに削減する。

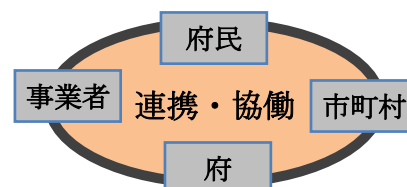
(産業廃棄物)

2020 年度に産業廃棄物の排出量を 1,534 万トンに抑制するとともに、再生利用率を 32.2% に向上させ、最終処分量を 37 万トンに抑制する。

【参考】

○一般廃棄物	2016 年度実績	○産業廃棄物	2014 年度実績
排出量	: 307 万トン	排出量	: 1,518 万トン
再生利用率	: 13.8%	再生利用率	: 31.8%
最終処分量	: 36 万トン	最終処分量	: 38 万トン
1 人 1 日当たりの生活系 ごみ排出量	: 448g/人・日		

- ・大阪府環境審議会に循環型社会推進計画部会を設置し、国が公表する廃棄物処理法に基づく基本方針等を踏まえて、次期計画を検討する。



循環型社会推進計画の実施主体

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

■再生品普及促進事業

[151 千円]

(目的)

資源の循環的な利用の促進と循環型社会の形成に寄与する事業を営む事業者を育成すること。

(内容)

府内で発生した循環資源（廃棄物等）を利用して日本国内の工場で製造したものあるいは国内で発生した循環資源を利用して府内の工場で製造したものであって、品目ごとの認定基準に適合するものを「大阪府認定リサイクル製品」として認定します。

2015年度に制度を改正し、「使用済の認定製品を製造者が回収して再びリサイクルする製品」である『なにわエコ良品ネクスト』と、それ以外のリサイクル製品である『なにわエコ良品』に認定製品を区分しました。

「繰り返しリサイクルされる製品」にも着目して認定することで、「より質の高いリサイクル」を推進します。

<2019年度の取組指標>

- ・認定製品の普及啓発・利用促進を図るとともに、年1回（3月）認定を実施する。

【参考】2018年10月1日現在

- ・認定製品数 265 製品
うち、なにわエコ良品ネクストは 66 製品。



「なにわエコ良品ネクスト」マーク



ガレージセール・イン・
OSAKATOWNでの
認定製品の展示

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

■容器包装リサイクルの推進

[115 千円]

(目的)

「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき、府内における容器包装廃棄物の発生抑制や再商品化を促進すること。

(内容)

第8期大阪府分別収集促進計画（2017～2021年度、2020年度目標：分別収集量：23万4千トン）に基づき、市町村の分別収集の実施状況やリサイクル施設の整備状況を把握します。また、分別収集や再商品化の促進に必要な収集体制、処理に関する改善方策等について情報提供を図ります。

さらに、市町村と連携し、第9期大阪府分別収集促進計画（計画期間：2020～2024年度）を策定します。

<2019年度の取組指標>

- ・府内市町村の分別収集の実施状況を把握し、ホームページ上で速やかに公表する。

【参考】2017年度分別収集量（速報値）：16万6千トン

- ・第9期大阪府分別収集促進計画を策定する。



ペットボトルの選別施設

【循環型社会推進室 06-6210-9567】

■プラスチック対策推進事業【新規】

[2,951 千円]

(目的)

府では、2019年1月28日に大阪市と共同で「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、使い捨てプラスチックの削減や3Rをさらに推進することとしており、国が策定する「プラスチック資源循環戦略」等を踏まえて、事業者や府民の新たな取組みを進めること。

(内容)

- ①おおさかプラスチック対策推進ネットワーク(仮称)の運営
 - ・府内におけるさらなるプラスチックごみ対策を推進するため、事業者、有識者、市町村、NPO等による推進体制(おおさかプラスチック対策推進ネットワーク(仮称))を整備し、事業者の具体的な取組みを検討します。
- ②府全域展開に向けた府民啓発
 - ・プラスチックごみ問題や最新の国内外の取組みを紹介するシンポジウムを開催し、府民や事業者のプラスチックごみ対策の機運を醸成します。
 - ・プラスチックごみ問題に関する府民にわかりやすい啓発資材(パネル、マイバック等)を作成し、府内の環境イベントや小売店等で啓発を行うとともに、その効果を確認します。



おおさかプラスチック対策推進ネットワーク(仮称)のイメージ

<2019年度の取組指標>

- ・対策推進ネットワーク(仮称)開催回数: 2回
- ・シンポジウム開催数: 1回
- ・府民啓発(環境イベント等): 7回

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

廃棄物排出量の削減

■産業廃棄物の多量排出事業者による取組みの促進

[- 千円]

(目的)

事業者から提出された処理計画及び実施状況報告の内容を公表することにより、見える化を図り、事業者の自主的な産業廃棄物の減量化への取組み等を促進すること。

(内容)

事業活動に伴い多量の産業廃棄物を生ずる事業場を設置している事業者(多量排出事業者)は、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画及びその実施の状況について知事に報告することとなっています。

事業者から提出された報告の内容をホームページ上に速やかに公表することにより、事業者の自主的な産業廃棄物の減量化への取組み等を促進し、必要に応じ適切な助言を行います。

<2019年度の取組指標>

- ・処理計画及び実施状況報告の内容を速やかに公表する。

【参考】2017年度公表状況

産業廃棄物処理計画	233件
産業廃棄物処理計画実施状況報告	239件
特別管理産業廃棄物処理計画	95件
特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告	94件

【循環型社会推進室 06-6210-9570】

■食品ロス削減対策の推進

[3,969 千円]

(目的)

府内の食品ロス削減に向けて、事業者・府民の取組みを促進すること。

(内容)

- ・「食品ロス削減ネットワーク懇話会」を継続し、情報共有や意見交換を行います。
- ・小売店や飲食店において、府民の行動変容を促すようなアイデアを実証事業として実施し、効果検証を行います。
- ・小売業及び外食産業事業者等の食品ロス削減の取組み自体を後押しする制度を本格実施し、取組みやすい環境を整えていきます。
- ・小売業及び外食産業事業者等と連携したキャンペーンを実施し、食品ロス削減の機運を醸成していきます。
- ・「家庭の食品ロス実態調査（2018年度）」で得られた結果等を活用し、市町村による府民啓発を促進していきます。

<2019年度の取組指標>

- ・食品ロス削減キャンペーンの実施事業者数 5 事業者
- ・市町村による啓発事業数 10 市町村



啓発ポスター

【循環型社会推進室 06-6210-9566】

【流通対策室 06-6210-9607】

廃棄物の適正処理の徹底

■PCB廃棄物等適正処理の推進

[144,833 千円]

(目的)

PCB(ポリ塩化ビフェニル)使用製品及び廃棄物について、期限内(高濃度は2020年度末まで、低濃度は2026年度末まで)の完全処分を目指すこと。

(内容)

- ・改正 PCB 特別措置法(2016年8月1日施行)により、期限内の完全処分が義務付けられた PCB 使用製品及び廃棄物について、「大阪府 PCB 廃棄物処理計画」に基づき、保有している事業場への立入検査などにより、法に基づく届出、適正管理及び期限内処分を行うよう指導を行います。
- ・府が保有している小型コンデンサーや安定器等については、中間貯蔵・環境安全事業(株)(JESCO)北九州 PCB 処理事業所で、2015年度から計画的に処理を行っています。
- ・中小企業等による PCB 廃棄物の処理を推進するため、国と都道府県が、(独)環境再生保全機構に拠出した PCB 廃棄物処理基金を通じて、中小企業等が負担する高濃度 PCB 廃棄物の処理費用を軽減します。

<2019年度の取組指標>

- ・府内における PCB 廃棄物(JESCO 大阪 PCB 処理事業所の処理対象である高圧機器等)の処理進捗率
2019年9月末:95.6% ※JESCO 大阪への登録台数に占める割合
 - ・府保有(府庁別館保管分)の小型コンデンサー等の処理 4 トン
- 【参考】
- ・府内における PCB 廃棄物の処理進捗率 94.5%(2018年9月末現在)
 - ・府保有の小型コンデンサー等の処理 4 トン(2017年度実績)



PCB廃棄物(コンデンサー)に係る立入検査

【循環型社会推進室 06-6210-9570】

■産業廃棄物の適正処理の徹底

[26,665 千円]

(目的)

廃棄物の排出事業者や処理業者への指導を徹底し、不適正処理の未然防止、早期発見を図ること。

(内容)

- ・排出事業者や処理業者に対しては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付や適正処理に向けた指導の徹底を図ります。
- ・産業廃棄物の野積みや野外焼却等の不適正処理の未然防止、早期発見に向けた随時のパトロールによる監視・指導など、警察等と連携しながら法令遵守の徹底を図るとともに、土地所有者等への土地の適正管理等の啓発・指導により不適正処理の未然防止を図ります。
- ・2018年4月からの改正廃棄物処理法に基づく、「有害使用済機器（廃棄物を除く、使用済の電気電子機器）」の届出については、これらを取り扱う業者への立入検査等により、届出や保管・処分の基準遵守を指導していきます。



産業廃棄物の不適正処理現場
(野外焼却)

<2019年度の取組指標>

- ・建設廃棄物の分別排出、混合廃棄物の発生・排出抑制の取組み促進、廃棄物の適正処理推進のため、説明会の開催、集中パトロール等を実施
 - ・排出事業者への説明会の開催 3回程度
 - ・不適正処理防止推進強化月間 6月・11月
- 【参考】2017年度実績
- ・不適正処理件数 317件

【循環型社会推進室 06-6210-9570】

■廃棄物最終処分場の適正管理等

[132,377 千円]

(目的)

廃棄物最終処分場の適正管理及び確保を図ることにより、廃棄物の適正処理を進め、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に資すること。

(内容)

大阪湾圏域広域処理場整備事業（フェニックス事業）について、関係地方公共団体と協力し、事業促進を図ります。

また、産業廃棄物最終処分場である堺第7-3区について、周辺環境等に影響を及ぼさないよう、法令に則した適切な維持管理等を行います。



フェニックス処分場での
廃棄物受入

<2019年度の取組指標>

- ・大阪湾圏域広域処理場整備事業の促進会議 10回
 - ・堺第7-3区の適切な維持管理
 - 環境調査 12回 1,815検体
 - 護岸被覆防食工事 30.1m
 - 老朽化対策工事（排水路） 111m
- 【参考】2017年度実績
- ・大阪湾圏域広域処理場整備事業の促進会議 10回
 - ・堺第7-3区の適切な維持管理
 - 環境調査 12回 2,031検体
 - 護岸被覆防食工事 65m
 - 老朽化対策工事（排水路） 194m

【循環型社会推進室 06-6210-9562】

II-3 全てのいのちが共生する社会の構築

《2020年度の目標》

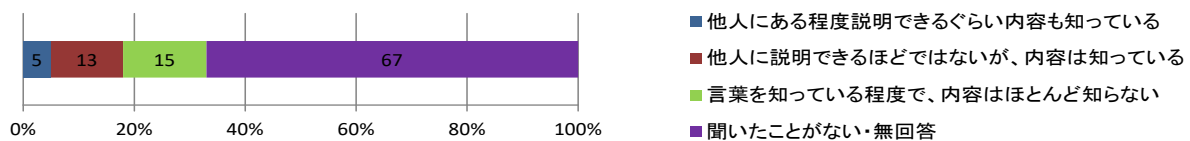
生物多様性の府民認知度を70%以上にする。(2008年度府民アンケート16.9%)

生物多様性の損失を止める行動を拡大する。

- ・ 活動する府民を倍増する。(2014年府民アンケート 6.0%)
- ・ 保安林や鳥獣保護区等の生物多様性保全に資する地域指定を新たに2,000ha拡大する。(2009年度比)

《目標に対する現状》

- 生物多様性に関する府民の認知度（「他人にある程度説明できるぐらい内容も知っている」と「他人に説明できるほどではないが、内容は知っている」と回答した割合）は約18%（2017年度）^注です。（2008年度比約1ポイント増加）



(参考1)「言葉を知っている程度で、内容はほとんど知らない」を含めた生物多様性という言葉の認知度は約33%です。

(参考2)上記の認知度の回答に関わらず、下記の生物多様性に関わる項目のいずれかについての認知度は約67%です。

1. 生きものはそれぞれの豊かな個性とつながりにより、支え合って生きていること
2. 私たちの生活は、生物多様性によってもたらされる生きものの恵みによって成り立っていること
3. 人々の暮らしや関わりにより維持されている里地里山が生物多様性上大切であること
4. 世界の森林やサンゴ礁が、年々減少していること
5. 希少な動植物について、国や自治体がレッドデータブックやレッドリストを作成していること
6. 国際的に生物多様性条約が定められていること
7. 外来生物が日本の在来種の生息環境を脅かし、生態系への悪影響や農作物への被害などの問題を引き起こしている

注)府民アンケート調査の対象者は、2015年度より、府政モニターから民間のインターネット調査会社が保有するモニターに変更しました。

- 保安林や鳥獣保護区等生物多様性保全に資する地域指定は83,892ha(2018年3月末)です。(2009年度比1,922ha増加)

生物多様性の保全に資する地域指定状況

名称	指定面積(ha)	名称	指定面積(ha)
保安林	17,244	自然環境保全地域	38
鳥獣保護区	12,914	緑地環境保全地域	37
国定公園	16,498	特別緑地保全地区	3
府立自然公園	3,541	自然海浜保全地区	22
近郊緑地保全区域	33,580	国・府指定天然記念物	15
		合計	83,892

●施策の方向

生物多様性についての府民理解を促進し、生物の生息環境の保全と回復への行動を促進します。

- 生物多様性の重要性の理解促進
- 生物多様性に配慮した行動促進
- 府民と連携したモニタリング体制の構築
- 生物多様性保全に資する地域指定の拡大
- エコロジカルネットワークの構築推進

2019年度の主な施策・事業と取組指標

生物多様性の社会への浸透

■天然記念物イタセンパラの保護増殖及びこれを活用した普及啓発事業

[- 千円]

(目的)

淀川に生息する天然記念物で種の保存法選定種の淡水魚イタセンパラの野生復帰の試みと、それらを用いた普及啓発を推進し、自然保護や生物多様性保全の重要性についての理解を深めること。

(内容)

(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター(旧水生生物センター)において、センター内で生息域外保存しているイタセンパラを、2009年度から国土交通省・淀川河川事務所と共同で淀川に放流し、野生復帰を試みました。過去5年間の調査では、放流した成魚が繁殖し、野生での定着が確認されています。

2019年度は、淀川での繁殖状況の確認や、外来種の生態や駆除及び魚病に関する調査研究等を行うとともに、「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)」が行う保全活動を支援します。さらに、親子等府民を対象とした観察会の開催やイタセンパラの生体展示等を実施し、自然保護や生物多様性保全の重要性について普及啓発を図ります。



イタセンパラ



地元児童による放流

<2019年度取組指標>

・イタセンパラの野生復帰に向けた放流効果と繁殖状況の確認

・観察会(1回、100人)

【参考】2017年度実績

・出前講座(3回、122人)

【みどり推進室 06-6210-9557】

■生物多様性保全のための普及啓発推進

[2,200 千円]

(目的)

生物多様性の意義や重要性の理解促進を図るため、生物多様性に関わる施設等との連携のもと、普及啓発を進めること。

(内容)

生物と人との関わりや、生物多様性の重要性について、生物多様性関連施設のネットワークであるおおさか生物多様性施設連絡会や、大学のネットワークなどを活用して、府民理解の促進に向けた生物多様性の普及啓発を進めるとともに、ボランティアなどの人材育成を進めていきます。

また、国、市町村、関係機関とも連携し、特定外来生物連絡協議会などの場を活用し、特定外来生物の防除等に関する情報共有や研修会などを行い効果的な対策を進めていきます。



普及啓発シンポジウム

<2019年度取組指標>

・おおさか生物多様性施設連絡会の開催 2回

【参考】2017年度実績

・おおさか生物多様性施設連絡会の開催 1回

【みどり推進室 06-6210-9557】

生息環境の保全

■日本万国博覧会記念公園事業（市民参画型事業）

[- 千円]

（目的）

万博記念公園における生物多様性の向上を図るため、市民参画等により、園内環境の整備を行うこと。

（内容）

NPO 団体等との、協働により、竹林や花壇、森林の整備を行うと共に、自然ガイドといった情報発信を行います。

（2018 年 10 月から、指定管理者に事業引き継ぎ済。）



竹林の保全活動

〈2019 年度の実施指標〉

市民参加による管理

- ・竹林・田畑・果樹園 5.2ha
- ・園内花壇 0.6ha

【日本万国博覧会記念公園事務所 06-6877-3349】

■特定外来生物防除対策推進事業【新規】

[2,500 千円]

（目的）

府内において、サクラ、モモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し枯死させる特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害が拡大する中、市町村における防除活動を促進すること。

（内容）

環境省の公募事業を活用し、クビアカツヤカミキリの生態や防除方法等について、府内市町村をはじめ関係者等に周知するとともに、市町村の緊急的な調査及び防除活動をサポートします。



クビアカツヤカミキリ

〈2019 年度の実施指標〉

- ・市町村や施設管理者等を対象とした防除研修会の開催 6 回程度

【みどり推進室 06-6210-9557】

■共生の森づくり活動の推進

[7,976 千円]

(目的)

堺第7-3区産業廃棄物最終処分場において、自然再生のシンボルとなる共生の森を整備し、多様な主体との協働による森づくり活動を支援すること。

(内容)

堺第7-3区産業廃棄物処分場の一部「共生の森(約100ha)」において、野鳥や小動物の生息する草地や水辺等に森林が介在する大規模な“みどりの拠点”を創出するために、府民、NPO、企業等多様な主体との連携による植栽、草刈、間伐等の森づくり活動と、自然観察等の自然環境学習を実施します。



共生の森での森づくり活動

<2019年度の実績指標>

- 共生の森づくり活動への参加人数 約 1,200 人
- 企業や府民による植栽面積 約 1 ha

【参考】2017年度実績

- 共生の森づくり活動への参加人数 1,615 人/年
- 企業や府民による植栽面積 約 1ha

【みどり推進室 06-6210-9557】

II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（1） ～良好な大気環境を確保するために～

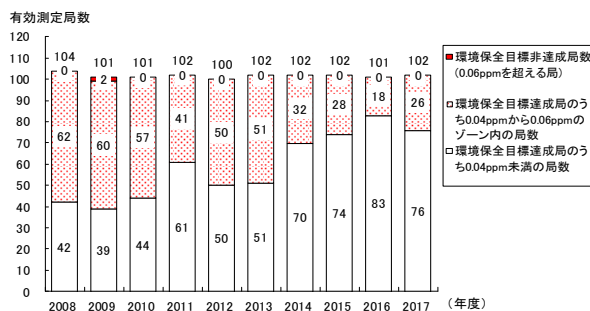
《2020年度の目標》

大気環境をさらに改善する。

- ・ 二酸化窒素の日平均値 0.06ppm 以下を確実に達成するとともに、0.04ppm 以上の地域を改善する。
- ・ 微小粒子状物質（PM2.5）の環境保全目標を達成する。
- ・ 光化学オキシダント濃度 0.12ppm（注意報発令レベル）未滿を目指す。

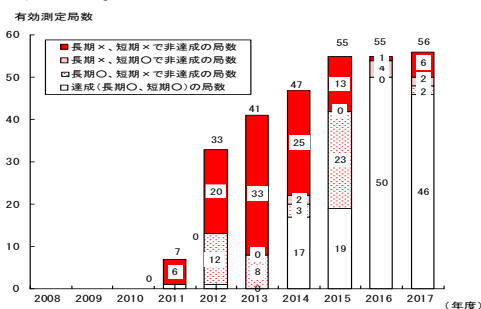
《目標に対する現状》

- 二酸化窒素は、改善傾向にあり、環境保全目標（1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内、またはそれ以下）の上限値 0.06ppm を下回るレベルに達し、約 3/4 の地域が 0.04ppm 未滿となっています。



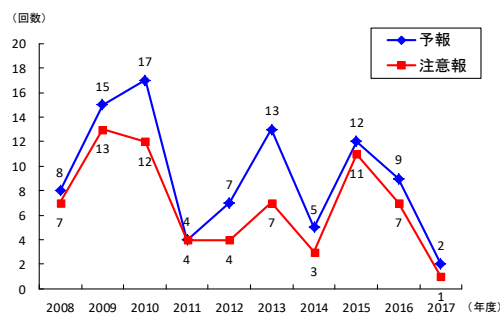
二酸化窒素の環境保全目標達成局数の推移

- PM2.5 は、2011 年度から自動測定機を順次整備し、常時監視をしています。2017 年度は、56 局（有効測定局）で測定を行い、46 局で環境保全目標を達成しました。



微小粒子状物質（PM2.5）の環境保全目標達成局数の推移

- 光化学スモッグ注意報の発令回数は、年度毎に気象条件による変動が大きく、増減を繰り返しています。また、九州地方から東北地方の広い範囲で発令があり、西日本や日本海側では、広域移流の影響も指摘されています。



光化学スモッグの発令回数の推移

光化学スモッグとは

光化学オキシダントの濃度が高くなったとき、気象条件により白くモヤがかかったようになる現象のこと。人体への影響としては、目やのどへの刺激を中心とする被害が報告されています。

PM2.5とは

大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径 2.5 マイクロメートル以下の微小な粒子のことをいいます。肺の奥深くまで入り込みやすく、長期的に一定濃度以上吸入すると、呼吸器疾患、循環器疾患等の影響が懸念されるため、環境基準が設定されています。
※環境基準は 2009 年 9 月に「1年平均値 15 μg/m³ 以下、かつ、1日平均値が 35 μg/m³ 以下」に定められました。

● 施策の方向

自動車排出ガス対策や工場等の固定発生源対策を推進します。

- 自動車から排出される窒素酸化物（NOx）と粒子状物質（PM）の削減対策の推進
- PM2.5 の現状把握と対策の検討・実施
- 揮発性有機化合物（VOC）の排出削減
- 建築物の解体工事に伴うアスベストの飛散防止対策の徹底

2019年度の主な施策・事業と取組指標

固定発生源対策の推進

■大気汚染防止のための事業所規制

[2,569 千円]

(目的)

事業所に対して大気汚染物質の排出規制を行い、大気環境基準を達成すること。

(内容)

大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく施設等の設置・変更の事前届出について、ばい煙（NO_x、SO_x、ばいじん、有害物質）、揮発性有機化合物、一般粉じん、水銀、ダイオキシン類等の排出基準、設備構造基準に適合しているかを審査し、必要に応じ改善指導を行います。

また、法・条例による規制の実効性を確保するため、施設の稼働状況や排ガス測定結果の立入検査を行うとともに、事業者の点検結果等の報告を求め適正な指導を行うほか、規制基準の適合状況を確認するため、行政による排ガス等の測定を実施します。



検査のために処理施設から排ガス採取

〈2019年度の取組指標〉

- ・法、条例対象施設に対して、規制基準に適合しているか確認するとともに、適合していない場合は速やかに改善するよう指導を徹底する。
- ・大阪府が所管する対象事業所のうち、規制基準が適用される特定施設・届出施設等を設置している事業所に対して規模に応じて立入検査を実施する。特に、総量規制対象、ダイオキシン対象事業所には全数立入検査を行う。

【参考】2017年度実績

- ・立入検査をのべ573回実施
- ・大規模排出事業所 NO_x 測定 2事業所
- ・使用燃料等測定 3事業所
- ・ダイオキシン類排出濃度測定 2事業所
- ・揮発性有機化合物濃度測定 1事業所
- ・水銀濃度測定 2事業所

【環境管理室 06-6210-9581】

自動車排出ガス対策の推進

■自動車NO_x・PM総量削減計画の推進（計画の進行管理）

[9,843 千円]

（目的）

窒素酸化物（NO_x）及び粒子状物質（PM）の削減のため、2013年6月に策定した自動車NO_x・PM総量削減計画〔第3次〕に基づき、関係機関が各種自動車環境対策を連携・協力して推進するとともに、府が適切に計画の進行管理を行い、2020年度までに対策地域全体で二酸化窒素（NO₂）及び浮遊粒子状物質（SPM）に係る大気環境基準を達成すること。

（内容）

関係機関（関係市町村、道路管理者等）と連携し、流入車規制の推進、エコカーの普及促進、エコドライブの推進、交差点対策（右折レーン設置等の渋滞対策）等の交通流対策等の諸施策を総合的に推進します。

併せて、道路交通センサスや自動車輸送統計調査などを基に、自動車からのNO_x・PMの排出量を推計するとともに、自動車環境対策の進捗状況を把握します。

〈2019年度の取組指標〉

- ・NO₂、SPMに係る大気環境基準の全局達成
- ・NO_x・PMの排出量の把握

【参考】

- ・NO₂、SPMに係る大気環境基準 全局達成（2017年度）
- ・対策地域からのNO_x・PM排出量
NO_x：11,990トン、PM：560トン（2017年度）



自動車NO_x・PM総量削減計画策定協議会幹事会の開催

【環境管理室 06-6210-9586】

■流入車対策の推進

[388 千円]

（目的）

府内の対策地域内への非適合車の流入を規制することにより、NO_x・PMの排出量を削減し、大気環境基準の継続的・安定的な達成を図ること。

（内容）

大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく流入車規制を推進します。「非適合車ゼロ宣言」のスローガンを掲げ、非適合車の根絶を目指して立入検査や指導を実施します。

比較的非適合率の高い自家用自動車対策として、出入りの多い施設管理者等と連携し、利用者への条例の周知を強化します。

改善指導に従わず、車種規制適合車等の使用義務に違反する事業者に対し、条例に基づき使用命令を発令するとともに氏名等を公表します。

〈2019年度の取組指標〉

- ・立入検査での検査台数 7,000台
（バス駐車場、卸売市場、展示場、工場等で実施）

【参考】

- ・立入検査での検査台数 5,451台（2018年4月～12月）
- ・命令・公表 39件（2012年度～2018年12月）



流入車規制の立入検査

【環境管理室 06-6210-9587】

光化学オキシダント・SPM対策の推進

■光化学オキシダント・VOC対策の推進

[129 千円]

(目的)

府民の健康を守るため、光化学スモッグの原因物質の一つである揮発性有機化合物（VOC）の排出量を削減すること。

(内容)

VOCの排出規制を着実に実施するとともに、化学物質管理制度に基づく事業者による適切な管理等を促進することにより削減します。

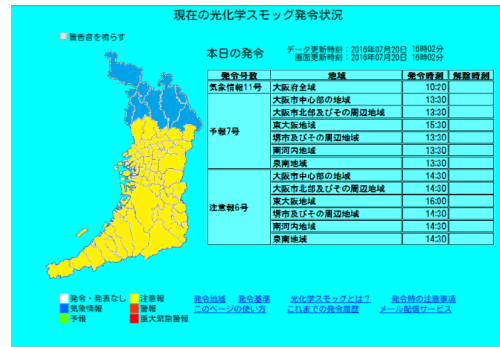
また、光化学スモッグ予報等の発令時には、健康被害の未然防止のため府民への周知を行うとともに、削減措置の対象工場へNO_xやVOCの削減要請を行います。

<2019年度の取組指標>

- ・VOCの排出抑制

【参考】

- ・VOC届出排出量 9,900トン/年（2016年度）



光化学スモッグ発令画面

【環境管理室 06-6210-9577】

PM2.5対策の推進

■微小粒子状物質（PM2.5）の現状把握と的確な注意喚起の実施

[14,072 千円]

(目的)

PM2.5について効果的な対策を行うため、監視測定局を整備して連続測定を行い、監視結果を府民に分かりやすく提供するとともに、府民の安全・安心を確保するため、PM2.5の情報や注意喚起を的確に発信すること。

また、PM2.5の成分分析結果等を用いた解析を行い、発生源寄与割合の推計等についての知見を集積すること。

(内容)

府管理の測定局25局で自動測定機による連続測定を行い、結果をホームページで分かりやすく提供するとともに、季節ごとに成分分析を行うことにより、府内におけるPM2.5の構成成分の実態及び季節変化を把握します。

また、PM2.5濃度が高くなると予測される場合、注意喚起の情報を防災情報メール等により速やかに発信します。

さらに、測定結果や発生源対策に係る国の調査・検討状況を踏まえ、効果的な削減対策を進めるため、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所と連携して、PM2.5の各発生源からの寄与の解析等について調査研究を行います。

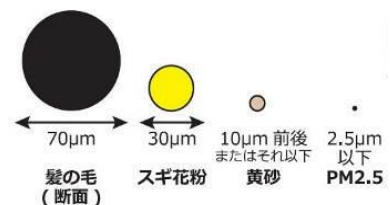
<2019年度の取組指標>

- ・環境大気中の微小粒子状物質の状況把握

(府管理 一般局：19局、自排局：6局、うち成分分析：2局)



PM2.5自動測定機



粒子の大きさ比較

【環境管理室 06-6210-9621】

アスベスト飛散防止対策の推進

■府有施設吹付アスベスト対策事業

[219,978 千円]

(目的)

府有施設において使用されているアスベストによる健康被害を防ぐこと。

(内容)

アスベストによる健康被害を防ぐため、府有施設において使用されている吹付アスベストの除去対策工事を実施するとともに、空気環境測定等の定期点検を実施します。

<2019 年度の取組指標>

- ・アスベスト除去対策工事の実施 5施設
- ・空気環境測定の実施 275箇所

【参考】2017 年度実績

- ・アスベスト除去対策工事の実施 4施設
- ・空気環境測定の実施 284箇所

【公共建築室 06-6210-9788】

■アスベスト飛散防止対策等の推進

[1,709 千円]

(目的)

府民の健康を守るため、建築物等の解体・改造・補修に係るアスベスト飛散防止の徹底を図ること。

(内容)

大気汚染防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく立入検査、石綿濃度測定等を実施するとともに、建設リサイクル法の届出情報を活用し、事前調査の内容確認や届出対象規模未滿の解体現場等の立入検査を行います。

また、「アスベスト飛散防止推進月間」と位置付けている6月と12月に解体現場の府域一斉パトロールを実施するほか、府民・事業者を対象とした飛散防止対策セミナーや関係団体・市町村と「大阪府「みんなで防止！！石綿飛散」推進会議」を開催し、徹底した石綿飛散防止対策の周知の取組みの共有を行います。



大気中の石綿濃度測定

<2019 年度の取組指標>

- ・解体現場等の立入検査
 - ・規模の大きい作業の石綿濃度測定
(分析は(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所により実施。)
 - ・石綿飛散防止対策セミナー等の開催
- 【参考】2017 年度実績
- ・届出 161 件、立入検査等 604 件

【環境管理室 06-6210-9581】

II-4 健康で安心して暮らせる社会の構築（2）

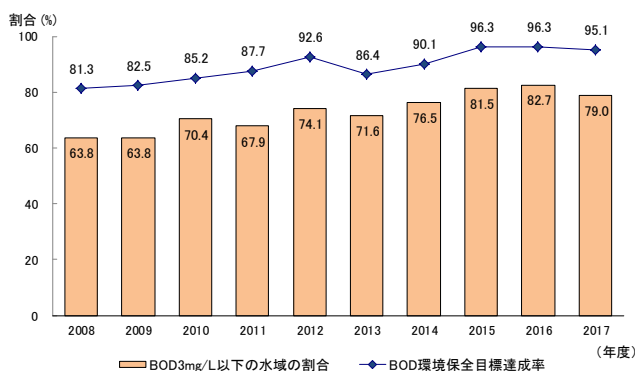
～良好な水環境を確保するために～

《2020年度の目標》

- 人と水がふれあえ、水道水源となりうる水質を目指し、水環境をさらに改善する。
 - ・ BOD（生物化学的酸素要求量）3 mg/L 以下（環境保全目標のB類型）を満たす河川の割合を8割にする。
- 多様な生物が棲む、豊かな大阪湾にする。
 - ・ 底層 DO（溶存酸素量）5 mg/L 以上（湾奥部は 3 mg/L 以上）を達成する。
 - ・ 藻場を造成する（藻場面積 400ha を目指す）。

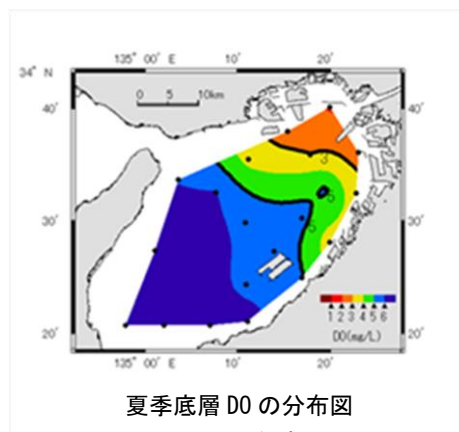
《目標に対する現状》

- 河川の水質は、工場・事業場の排水処理対策や下水道の整備等によって全体的に改善傾向がみられます（BOD 3 mg/L 以下を約8割の水域で達成）。



府内河川における BOD の環境保全目標達成状況及び BOD 3 mg/L 以下の水域の割合の推移

- 夏季に湾奥部や埋立てのための海底土砂採取等で生じた窪地で発生する貧酸素水塊や青潮が水生生物に影響を与えています。



貧酸素水塊とは
水に溶けている酸素の量が極めて少ない水塊のこと。

- 大阪府の海岸は、埋立てや海岸整備等により、自然海岸が全体のわずか1%という状況であり、魚介類の産卵・育成に不可欠な藻場は近年横ばい傾向で推移しています（2017 年度推計値：365ha）。

● 施策の方向

流域の特性に応じた水質、水量、水生生物、水辺等を総合的に捉えて対策を推進します。

- 生活排水の 100%適正処理を目指した生活排水処理対策の促進や総量規制等の工場・事業場排水対策の推進
- 健全な水循環の保全・再生
- 大阪湾の環境改善対策の推進

2019 年度の主な施策・事業と取組指標

水質汚濁負荷量の削減

■総量削減計画の進行管理

[1,353 千円]

(目的)

府内から発生し大阪湾に流入する化学的酸素要求量 (COD)、窒素 (T-N)、りん (T-P) の量を削減し、閉鎖性水域である大阪湾の水環境の改善を図ること。

(内容)

COD、T-N、T-Pに係る第8次総量削減計画の進行管理を行うため、関係機関等から入手した各種データの整理を行うことにより、発生負荷量を把握します。

また、同計画に基づく水環境の改善に向けた対策を推進する上で必要なデータを得るため、栄養塩等が滞留しやすい水域である湾奥部の高閉鎖性水域における調査を行います。

さらに、湾奥部の高閉鎖性海域における栄養塩類濃度の滞留状況や雨天時の流入負荷の実態、湾南部における栄養塩類濃度の実態について調査を行います。

<2019 年度取組指標>

- ・2018 年度の COD、T-N、T-P の発生負荷量を把握し、発生負荷量削減の進捗管理を行う。

【参考】

- ・2016 年度の COD、T-N、T-P の発生負荷量
COD 46 トン/日、T-N 46 トン/日、T-P 2.8 トン/日

【環境管理室 06-6210-9577】

■水質汚濁防止の事業所規制

[6,984 千円]

(目的)

水質汚濁防止法、瀬戸内海環境保全特別措置法、ダイオキシン類対策特別措置法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、事業所に対して水質汚濁物質等の排出規制及び有害物質の地下浸透規制を行い、水質環境基準の達成及び有害物質による地下水汚染の防止を図ること。

(内容)

法・条例に基づく施設の設置・変更の事前届出を義務付け、生物化学的酸素要求量 (BOD) や有害物質等の排水基準、設備構造基準に適合しているかを審査し、必要に応じ指導を行います。

また、規制の実効性を確保するため、届出施設等について立入・採水検査を実施し、排水基準や施設等の構造基準の遵守指導を行います。



事業所排水の採水検査

<2019 年度取組指標>

- ・排水基準が適用される事業所全てに、立入・採水検査を実施
- ・施設等の構造基準が適用される事業所全てに、立入検査を実施

【参考】2017 年度実績

- ・工場・事業所立入件数：659 件、試料採取・分析件数：303 件 うち 21 件について改善を指導

【環境管理室 06-6210-9585】

■生活排水対策の推進

[113 千円]

(目的)

河川等の良好な水環境を確保するため、生活排水の負荷量の削減を図ること。

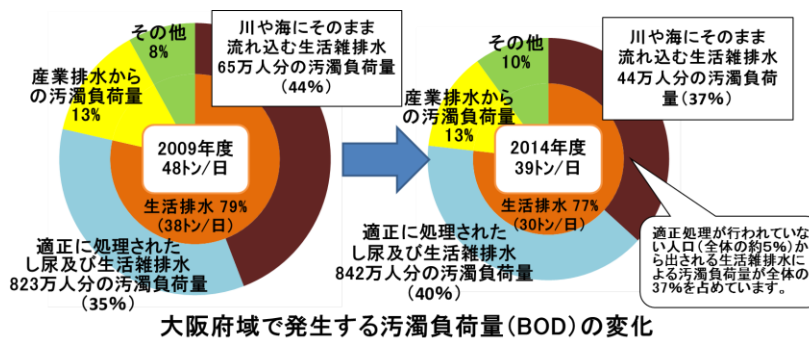
(内容)

河川等の汚濁の原因の約8割を占める生活排水の負荷量を削減するため、「市町村生活排水処理計画」の見直し等へ技術的支援を行い、下水道や合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の効率的・効果的な整備を促進します。

また、「大阪府生活排水対策推進月間」(2月)を中心に啓発活動を通じて、家庭でできる生活排水対策の実践の浸透を図ります。



生活排水対策の啓発活動



<2019年度の取組指標>

・「市町村生活排水処理計画」見直し予定市町村等を対象として、ヒアリング等技術的支援を実施

【参考】2017年実績 8回

・生活排水対策に関する街頭啓発やパネル展示等を実施

【参考】2017年実績 23回

【参考】生活排水適正処理率 95.5% (2016年度末)

【環境管理室 06-6210-9585】

■浄化槽整備事業の推進

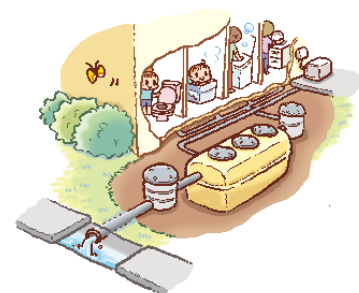
[16,154 千円]

(目的)

生活排水対策やトイレの水洗化による生活環境の改善のために、合併処理浄化槽の整備を推進すること。

(内容)

個人が浄化槽を設置する際の費用の一部を助成する「浄化槽設置整備事業(個人設置型)」及び市町村が主体となって各戸に浄化槽を整備し、住民から使用料を徴収して管理運営する「浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型)」を実施する市町村に対して、引き続き府費補助金を交付するなど、より一層の浄化槽整備を図ります。



合併処理浄化槽設置イメージ

<2019年度の取組指標>

・浄化槽設置整備事業(個人設置型) 10市町村

・浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型) 5市

【参考】2017年度実績

・個人設置型浄化槽 50基設置 (11市町村にて実施)

・市町村設置型浄化槽 54基設置 (5市にて実施)

【環境衛生課 06-6944-9181】

大阪湾の環境改善

■豊かな大阪湾の創出に向けた取組みの推進

[1,215 千円]

(目的)

大阪湾流域の自治体等の関係機関と連携し、大阪湾の水質改善・汚濁防止を図ることにより豊かな大阪湾の創出を目指すこと。

(内容)

「瀬戸内海の環境の保全に関する大阪府計画」に基づき、豊かな大阪湾の創出に向けた取組みを推進します。

また、大阪湾沿岸 23 自治体で構成する「大阪湾環境保全協議会」において、大阪湾の環境保全を啓発します。

さらに、大阪湾再生推進会議（事務局：近畿地方整備局、国・府県・市等で構成）が策定した「大阪湾再生行動計画」に基づき、総量規制や生活排水対策、水質一斉調査などを実施し、関係機関と連携しながら大阪湾の水質改善を推進します。

<2019 年度の取組指標>

- ・大阪湾のフォトコンテスト入賞作品を各地で展示
- ・大阪湾フォーラムの開催、フィッシングショー等のイベントへの出展 5回
【参考】2018 年度のイベントへの出展回数 6回
- ・モニタリングによる大阪湾の水質の状況把握
【参考】2018 年度の水質一斉調査には 37 の機関が参加し、陸域も含めると 542 点で調査を実施



「フィッシングショー-OSAKA」
出展イベントの様子

【環境管理室 06-6210-9577】

■「豊かな大阪湾」の創出に向けた環境改善啓発事業【新規】

[4,500 千円]

(目的)

栄養塩類の滞留等課題の多い湾奥部において、民間公募による環境改善モデル施設の試験設置への補助や、この施設を活用した NPO 等との連携によるエコバスツアーの開催により、大阪湾への愛着を高め、プラスチックごみなどの海ごみ削減等の環境配慮行動を促進すること。

(内容)

簡易エコ護岸、浅場創出等の湾奥部における環境改善モデル施設を民間事業者から公募し、施設の整備に係る費用の補助を行います。また、環境 NPO 等と連携し、環境改善モデル施設や大阪湾フォトコンテストで発掘した湾内の魅カスポットを巡る環境学習のエコツアーを開催します。

<2019 年度の取組指標>

- ・環境改善モデル施設 2 施設を民間公募し、設置
- ・NPO 等と連携した大阪湾魅カスポットを巡るエコバスツアーを 2 回開催
- ・鉄道会社と連携したエコウォークツアーを 2 回開催



環境改善モデル施設公募イメージ

【環境管理室 06-6210-9577】

■大阪湾漁場環境整備事業

[80,500 千円]

(目的)

貧酸素水塊の発生及び栄養塩が滞留している海域に攪拌ブロック礁を設置し、底層から表層にかけて湧昇流や攪拌流を発生させ、海域環境の改善を行うとともに栄養塩を緩やかに南下させること。

(内容)

岸和田市～泉佐野市沖の一般海域に潮流攪拌機能を持つブロック礁を設置し、海水中への栄養塩の供給や底質への酸素の供給など、魚介類の生育環境の向上を図ります。

<2019年度取組指標>

- ・攪拌ブロック礁を泉佐野市沖に設置し、1.32haの漁場環境整備を実施

【参考】2018年度実績

- ・攪拌ブロック 19基を泉佐野市沖に設置し、0.76haの漁場環境整備を実施



【水産課 06-6210-9612】

水循環の保全・再生

■流域下水道事業の推進

[36,490,910 千円]

(目的)

流域下水道の整備を進めることにより、公共用水域の水質改善を促進し、BODの環境保全目標の達成率の向上及び閉鎖性水域の富栄養化の軽減を図ること。

(内容)

大阪府の下水道普及率は96%を超えており、水みらいセンター（下水処理場）や流域下水道幹線などの基幹施設は概成していることから、管渠、ポンプ場、水みらいセンターの計画的な改築など下水道の機能維持に取り組み、引き続き大阪湾や河川等の公共用水域の水質改善を図ります。

また、水みらいセンターとポンプ場においては、合流式下水道の改善を推進します。

<2019年度取組指標>

- ・下水道普及率の向上

【参考】2017年度末現在

下水道普及率 96.3%

- ・施設整備内容

合流式下水道の改善 3箇所

下水処理機能の計画的な維持保全 42箇所

(うち、水みらいセンター14箇所、ポンプ場28箇所)



水みらいセンター

【下水道室 06-6944-6794】

Ⅱ－４ 健康で安心して暮らせる社会の構築（３）

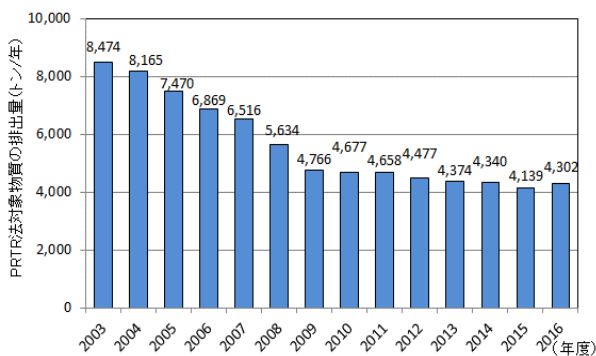
～化学物質のリスク管理を推進するために～

《２０２０年度の目標》

環境リスクの高い化学物質の排出量を 2010 年度より削減する。

《目標に対する現状》

- 府内における PRTR 法対象物質の届出排出量は減少傾向にあります。



府内における PRTR 法対象物質の届出排出量の経年変化

※届出排出量の数値は、最新の届出内容に基づき過去に遡って修正しています。

- 府内における PRTR 法対象物質の排出量は、全国第7位となっています。（居住地面積当たり排出量では全国第2位）

都道府県	届出排出量(t)	届出外排出量(t)			排出量合計(t)
		事業所	家庭	移動体	
1 愛知県	10,672	7,023	2,918	3,260	23,873
2 東京都	1,728	12,658	1,518	3,332	19,236
3 埼玉県	7,140	4,219	2,265	2,901	16,525
4 千葉県	5,587	5,664	2,350	2,778	16,379
5 静岡県	8,197	3,950	1,870	2,210	16,229
6 神奈川県	5,457	6,170	1,414	2,735	15,777
7 大阪府	4,302	6,799	1,714	2,616	15,432
8 茨城県	6,288	5,403	1,506	2,165	15,361
9 広島県	8,974	2,882	1,200	1,649	14,706
10 北海道	2,121	7,793	1,257	3,287	14,458
その他	90,964	69,961	27,511	41,748	230,185
合計	151,430	132,522	45,524	68,683	398,159

都道府県別の PRTR 法対象物質の排出量（2016 年度）

PRTR 法とは

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質の環境中への排出量等を把握、集計、公表する仕組み。現在 462 物質がこの法律の届出対象として指定されています。

● 施策の方向

環境リスクの高い化学物質の排出削減や人等への悪影響が懸念される化学物質に対する予防的取組みを推進するとともに、府民・事業者・行政等様々な主体の環境リスクについての理解促進を図ります。

- 環境リスクの高い化学物質の排出削減
- 化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進
- 残留性有機汚染物質や汚染土壌等の適正管理・処理

2019 年度の主な施策・事業と取組指標

環境リスクの高い化学物質の排出削減

■環境リスクの高い化学物質の排出削減

[344 千円]

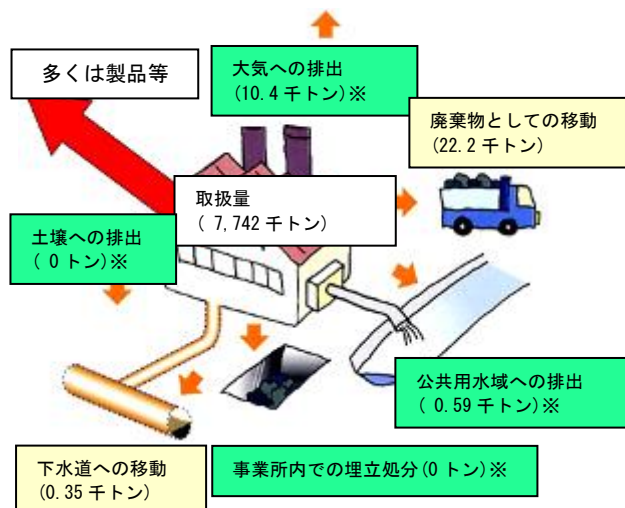
(目的)

化学物質に係る環境リスクを低減すること。

(内容)

環境リスクの高い化学物質の排出削減を図るため、PRTR法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、化学物質の排出量等の届出の受理、データの集計・公表を行うとともに、事業者に対する指導・助言を行います。

また、排出量削減の効果を検証するため、有害大気汚染物質モニタリング等の測定データを活用し、環境中への排出量データと環境濃度の経年的な傾向及びその関連性等について比較検討を進めていきます。



2016 年度の府域における化学物質の
届出排出量・移動量・取扱量

※届出排出量の合計：11.0千トン

<2019 年度の取組指標>

- ・環境リスクの高い化学物質の排出を削減する。

【参考】2017 年度実績

排出量等の届出件数：PRTR 法 1,537 件、条例 1,299 件

環境リスクの高い化学物質の排出量 11.0 千トン (PRTR 法対象物質 4,302 トンを含む)

(2016 年度)

【環境管理室 06-6210-9578】

■大規模災害時における化学物質による環境リスク低減対策の推進

[- 千円]

(目的)

大規模災害に備えた事業者による化学物質の自主的管理の強化を図ること。

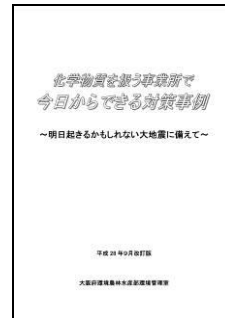
(内容)

事業者に対し、南海トラフ巨大地震等の大規模災害時の化学物質による環境リスクを把握し、その低減方策を検討・実施した管理計画書を、2014年度から2016年度までの3年間で、段階的に届出を求めました。

届出された計画書に沿って対策が行われていくよう進捗状況を把握するとともに、引き続き、立入検査等により対策推進の指導を行います。

さらに、届出対象規模未満の事業所を有する事業者に対しても、業界団体を通じて、対策手法や事例等について情報提供を行うことにより対策の検討・実施を促進していきます。

また、災害時の消防活動をより安全なものにするため、事業者からの届出情報に基づき、市町村消防部局に対し、化学物質の取扱情報を定期的に提供していきます。



対策事例集「化学物質を扱う事業所で今日からできる対策事例～明日起きるかもしれない大地震に備えて～」

<2019年度の取組指標>

- 届出された化学物質管理計画書の進捗状況の把握、立入検査等による対策推進の指導を行い、大規模災害に備えた事業者による化学物質の自主的管理の強化を促進

【参考】2017年度実績

- 大規模災害に備えたりリスク低減対策に関する化学物質管理計画書の届出件数 495件（2017年度までの累計）
- 立入検査実施件数 87件

【環境管理室 06-6210-9578】

■大阪エコ農業の推進

[22,641 千円]

(目的)

農業の環境への負荷軽減を進め、環境保全と生産性の調和と農業経営面（採算性）に留意した大阪エコ農業を推進すること。

(内容)

化学合成農薬と化学肥料の使用を従来の半分以下で生産した農産物を「大阪エコ農産物」として認証する制度を推進しています。2017年度からは「農薬・化学肥料（チッソ）不使用」の認証区分を追加しました。

また、このような栽培をした上で、さらに地球温暖化や生物多様性に効果の高い取組みをする農業生産活動に対し支援を実施します。また、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所と連携し病害虫防除に関する調査研究等を行います。

（地球温暖化や生物多様性に効果の高い取組みの例）

- 炭素貯留効果の高い堆肥の使用：カバークロープの作付け（水稻を栽培する前の水田にレンゲを栽培し土を豊かにする）等
- 化学合成農薬や化学肥料を全く使わない有機農業：生物農薬の使用等
- 農薬使用量の低減：飛ばないテントウムシや捕食性カブリダニ類などの天敵活用等

<2019年度の取組指標>

- 大阪エコ農産物認証面積 569ha

【参考】2017年度実績

- 大阪エコ農産物認証面積：563ha



大阪エコ農産物認証マーク



飛ばないナミテントウ



スワルスキーカブリダニ

【農政室 06-6210-9590】

化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進

■化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進

[- 千円]

(目的)

化学物質による環境リスクに関する科学的な知見・情報を府民・事業者・行政が共有し、相互理解を深めるための対話である「リスクコミュニケーション」の取組みを推進すること。

(内容)

化学物質の排出削減やリスクコミュニケーションの重要性について、府民・事業者等の理解を深めるため、化学物質対策に関するセミナーを開催し、府民・事業者・行政の対話の推進を図ります。

〈2019年度の取組指標〉

- ・化学物質対策に関するセミナーを開催し、府民・事業者・行政の対話の促進に努める。

【参考】2017年度実績

- ・化学物質対策セミナー 1回開催（501人参加）



化学物質対策セミナー

【環境管理室 06-6210-9578】

残留性有機汚染物質や汚染土壌等の適正管理・処理

■土壌・地下水汚染対策の推進

[670 千円]

(目的)

土壌汚染の早期発見、汚染土壌の適正な管理・処理による周辺住民の健康影響の防止、事業場における土壌汚染の未然防止及び地下水汚染対策を推進すること。

(内容)

土壌汚染による府民の健康影響の防止を図るため、2019年4月に施行される改正土壌汚染対策法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づき、土地の所有者等が行う土壌汚染の状況調査や汚染の除去等の措置について指導を行います。

また、有害物質を使用している事業場における土壌汚染の未然防止のための漏えい防止対策や、事業者による地下水汚染対策が適切に推進されるよう指導を行います。

〈2019年度の取組指標〉

- ・土壌汚染状況調査、汚染の除去等の措置、地下水汚染対策等の指導

【参考】2017年度実績

- ・形質変更届出件数 42件
- ・調査結果報告件数（法・条例・自主） 9件



汚染土壌掘削工事の現地確認状況（地下水位の確認）

【環境管理室 06-6210-9579】

Ⅲ 魅力と活力ある快適な地域づくりの推進

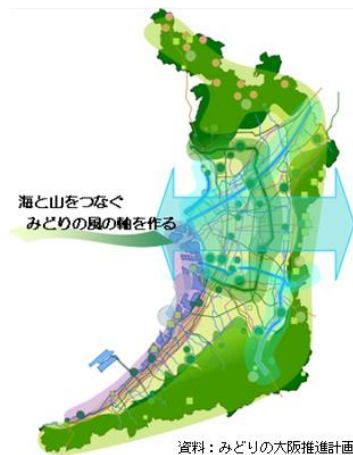
大阪は、その魅力と活力に惹かれ多くの人々が暮らし、働き、訪れる地域ですが、一方で、ヒートアイランド現象やいまだ多数の苦情がよせられる騒音・振動等の都市部特有の問題、「雑然としている」などのマイナスイメージもあります。

今後、日本全体の人口が減少していくなかで、引き続き都市の活力を維持していくためには、快適な生活環境が確保された「暮らしやすい」、「働きやすい」、「訪れたい」都市を目指し、大阪の特徴を活かした質の高い都市環境を創造し、魅力と活力を高めていくことが必要です。

～「暮らしやすい」、「働きやすい」、「訪れたい」都市を目指して～

緑と水辺の保全と創造

■みどりの風を感じる大阪



資料：みどりの大阪推進計画

魅力ある景観、歴史的・文化的環境の形成

■魅力ある景観の形成

■歴史的・文化的環境の形成



千早赤阪村下赤阪の棚田の風景



富田林市寺内町の町並



百舌鳥・古市古墳群

快適で安らぎのある都市環境の形成

■騒音・振動の防止

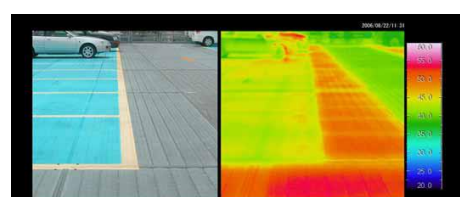
■ヒートアイランド現象の緩和



屋上緑化



透水性・保水性舗装



太陽熱の高反射舗装

2019 年度の主な施策・事業と取組指標

緑と水辺の保全と創造

■「みどりの風を感じる大都市・大阪」の推進

[一 千円]

(目的)

都市魅力の向上につながる都市緑化を一層前に進めていくため、部局連携による取組みを進め、民間主体の面的・線的なみどりのまちづくりの促進等により、みどり豊かな魅力あふれる大阪の実現を図ること。

(内容)

街区や沿道の一区間で民間事業者や地域住民が取り組む、緑陰や府民が憩える緑化空間の整備を促進します。施策の実施にあたっては、市町村との連携や民間寄附の活用を図りながら、取り組みます。

(主な事業)

・「実感できるみどりづくり事業」

まちなかでの民間事業者やまちづくり協議会等が主体となった街区単位等のみどりのまちづくりや「みどりの風促進区域(※)」での民間事業者や地域住民が連携して取り組む沿道での緑化活動などについて、緑化施設整備や緑化プランの作成等にかかる経費を補助します。

・「緑化活動支援事業」

「みどりの風促進区域」内で、各施設で緑化活動を行う企業・団体に対し、植栽の経費を補助します

(※)「みどりの風促進区域」

道路など公共空間と沿線民有地を一体的に緑化し、海と山をつなぐみどりの軸線の形成を目指すため、一定幅の沿線を民有地を含んで指定した区域。

・「良好な緑陰づくり支援事業」(新規)

接道部での良好な緑陰を形成するため、民間事業者が行う高木緑化に対する経費を補助します。

・「豊かな緑陰形成等支援事業」

府域各地での緑陰づくり等を促進するため、市町村による道路や公園などの公共空間での緑化整備・再生を支援します。

・「みどりの空間づくり事業」(新規)

交差点、歩道、河川沿い等の公共空間で、緑化整備と併せてベンチなどを設置し、涼しさと潤いを感じる憩いの空間を創設します。

・マイツリー事業

府民・企業から樹木1本当たり定額の寄付を募り、寄付者のメッセージ板を添えた樹木を府道に植栽します。

・その他

みどりづくり推進事業(活動助成)、地域緑化推進事業、みんなで育てる花いっぱいプロジェクト など

<2019 年度の取組指標>

・実感できるみどりづくり事業

「実感・みどり事業者」が行う緑陰等の整備及び緑化促進活動 5 地区
みどりの風促進区域での地域の緑化プラン策定、緑化施設の整備 4 地区

・緑化活動支援事業

4 地区

・良好な緑陰づくり支援事業

120 箇所

・みどりの空間づくり事業

2 箇所

・マイツリー事業

50 本植栽



民有地沿道部の
緑化のイメージ



良好な緑陰空間
のイメージ

【みどり推進室 06-6210-9558】

【都市計画室 06-6944-7594、06-6944-7459】

■子育て施設木のぬくもり推進事業

[113,550 千円]

(目的)

保育所や幼稚園の子育て施設の床や壁といった内装の木質化を進めることで、木材利用を促進し、木質化の効果をPRするとともに、森林の大切さや木材に対する理解を深める「木育」の促進を図ること。

(内容)

内装の木質化を実施する幼稚園及び認可保育所（認定こども園を含む）に対して補助を行います。

子どもの育成環境に良い効果を与え、森林の大切さや木材に対する理解を深める「木育」の促進を図るとともに、木材利用の拡大により森林の手入れが進むという流れが形成されることで、良好な森林環境の保全につながります。

<2019年度の実績指標>

- ・子育て施設の内装木質化 65 施設

【参考】2017年度実績

- ・子育て施設の内装木質化 31 施設



保育所の内装木質化

【みどり推進室 06-6210-9556】

魅力ある景観の形成

■府道緑化事業

[845,115 千円]

(目的)

都市の景観形成や環境改善等多様な役割を果たす街路樹を、適切に維持管理を行い、安全安心で魅力的な道路環境整備を推進すること。

(内容)

倒木しにくい樹種への更新や樹木が健全に生育できる基盤づくりを行うことにより、地域に親しまれる緑陰づくり、安全安心で魅力的な街路樹空間の形成を行います。また、定期的な点検を行うことで、倒木や枝折れの発生を予防し、良好な道路環境の創出を図ります。

<2019年度の実績指標>

- ・街路樹の更新・補植 高木：500本 低木：15,970本

【参考】2017年度実績

- ・街路樹の更新・補植 高木：285本 低木：約8,900本



府管理道路の街路樹整備状況の例（箕面摂津線）

【都市計画室 06-6944-9314】

■美しい景観づくり推進事業

[888 千円]

(目的)

「大阪府景観計画」等による適切な規制誘導の実施や、景観資源の発掘及び情報発信等を通じて、良好な景観形成を図ること。

(内容)

「大阪府景観計画」等による適切な規制誘導を実施し、良好な景観形成を図ります。

また、府民・事業者・行政による「大阪美しい景観づくり推進会議」の実施、地域の優れた景観資源の発掘・情報発信、景観上優れた建物等を表彰する「大阪都市景観建築賞」の実施などを通じて、府民等の景観に対する関心づくりに取り組み、良好な景観形成につなげます。

<2019年度の実績指標>

- ・「大阪美しい景観づくり推進会議」の開催 1回

- ・「大阪都市景観建築賞」の実施



第38回大阪都市景観建築賞大阪府知事賞（豊中市立文化芸術センター）

【建築指導室 06-6210-9718】

歴史的・文化的環境の形成

■指定文化財等の保全・活用と次世代への継承

[12,385 千円]

(目的)

大阪府の誇る指定文化財等の貴重な文化遺産を適切に保存・活用するとともに、これを確実に次世代に継承することによって、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心を育むこと。

(内容)

大阪府内に所在する各種文化財の把握に努め、特に価値が高いものについては、文化財指定等による保存の措置を講じます。

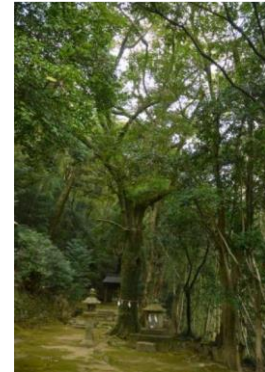
また永くこれを伝えていくため、必要な修理や防災設備の新設・点検・改修等が滞りなく進められるよう、専門的見地からの技術的支援を行うとともに、必要な場合は補助事業として財政的支援を行います。

<2019年度取組指標>

- ・文化財指定、登録の推進 6件
- ・文化財保存修理等補助事業 10件

【参考】2017年度実績

- ・文化財指定、登録の推進 52件
- ・文化財保存修理等補助事業 14件



天然記念物

信達神社のオガタマノキ (泉南市)

【教育庁文化財保護課 06-6210-9902】

暮らしやすい快適な都市環境の確保 (騒音・振動の防止)

■騒音・振動の防止

[12,425 千円]

(目的)

工場・事業場、建設作業及び道路等からの騒音・振動を防止し、生活環境の保全を図ること。

(内容)

幹線道路沿道における自動車騒音、大阪国際空港及び関西国際空港の周辺地域における航空機騒音、新幹線鉄道騒音に係る環境基準の達成状況を把握し、関係機関に低騒音舗装や低騒音型機材への代替などの対策の推進を働きかけます。

また、工場及び建設作業等の騒音・振動の規制権限を有する市町村において規制・指導の徹底が図られるよう、必要な技術的支援を行います。

<2019年度取組指標>

- ・自動車騒音調査の実施 10 町村域
(自動車騒音に係る環境基準の達成率：94.1% (2016 年度))
- ・航空機騒音調査の実施 (大阪国際空港周辺：通年3地点、短期2地点、関西国際空港周辺：短期2地点)
- ・市町村研修会の開催 3回

【参考】2017年度実績

- ・自動車騒音調査の実施 10 町村域
- ・航空機騒音調査の実施 (大阪国際空港周辺：通年3地点、短期2地点、関西国際空港周辺：短期2地点)
- ・市町村研修会の開催 3回



航空機騒音の測定

【環境管理室 06-6210-9588】

■沿道環境改善事業

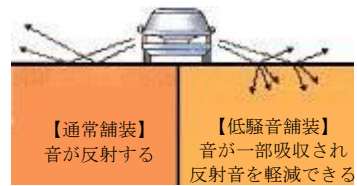
[30,000 千円]

(目的)

府が管理する道路において、騒音対策として低騒音舗装（排水性舗装）を実施し、沿道の環境改善を図ること。

(内容)

環境基準の達成状況が悪い区間（騒音対策区間）において、路面の損傷状況に応じた補修を行う際に、低騒音舗装（排水性舗装）を実施することにより、騒音の低減を図り沿道環境を改善します。



低騒音舗装による騒音対策

<2019 年度 of 取組指標>

- ・予定路線：国道 170 号、大阪臨海線 等

【参考】2017 年度実績

国道 170 号、大阪臨海線、大阪中央環状線 等

【交通道路室 06-6944-9291】

暮らしやすい快適な都市環境の確保（ヒートアイランド現象の緩和）

■クールスポットモデル拠点推進事業

[28,000 千円]

(目的)

屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善すること。

(内容)

府域におけるクールスポットの増加を目指し、モデルとなるクールスポットを整備する事業を民間事業者から公募し、緑化と併せ、遮熱塗装やミスト発生器等の整備に係る費用の補助を行います。



難波センター街商店街の
クールスポット

<2019 年度 of 取組指標>

- ・新たなクールスポットの創出 7 件

【参考】2017 年度実績

- ・クールスポットの創出 1 件

難波センター街商店街（大阪市中央区）

【エネルギー政策課 06-6210-9553】

暮らしやすい快適な都市環境の確保（悪臭の防止）

■悪臭防止規制指導に関する市町村支援

[14 千円]

（目的）

悪臭規制事務を担当する府内の市町村が適正な悪臭規制を推進できるよう市町村への支援を行うこと。

（内容）

市町村からの悪臭規制、指導に関する問合せの対応や悪臭防止法施行状況調査の取りまとめを通して、悪臭規制事務で市町村が苦慮している点や府内の悪臭苦情の現状を把握します。

そのうえで市町村職員を対象に研修会を開催し、臭気測定実習等の技術的支援を行うほか、各市町村での悪臭苦情事例等の情報共有や意見交換の場を設けることで、事務の処理方法や悪臭苦情の対応方法等の習得を支援します。

なお、近年の悪臭苦情は工場から発生する単一の匂い物質のほか、飲食店等から発生する様々な匂い物質が入り混じったいわゆる複合臭の事例が多いことから、これまでの特定悪臭物質規制に代わり、府民の悪臭に対する被害感覚と一致しやすい「臭気指数規制」を市町村が導入するよう、情報提供などの支援を実施します。

〈2019年度の取組指標〉

- ・市町村からの悪臭規制、指導に関する問合せへの対応
- ・悪臭防止法施行状況調査の取りまとめ
- ・市町村悪臭規制担当職員研修会の実施 1回

【参考】2017年度実績

- ・市町村悪臭規制担当職員研修会の実施 1回



研修会でのグループ
ディスカッションの様子

【環境管理室 06-6210-9581】

暮らしやすい快適な都市環境の確保（良好な住環境の確保）

■地盤沈下対策に係る規制指導

[4,453 千円]

（目的）

地盤沈下を未然に防止するため、工業用水法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく地下水採取の規制等を行うこと。

（内容）

工業用水法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく許可の審査のほか、地下水採取の実態を把握するため、地下水の採取量について報告の徴収を行い、必要に応じ事業者に対し指導を実施します。

また、府内の地盤沈下の状況を把握するため、計15箇所の地盤沈下・地下水水位観測所において地盤沈下量と地下水位の観測を行います。



地盤沈下・地下水水位観測所

〈2019年度の取組指標〉

- ・工業用水法に基づく許可、地下水採取量報告徴収
- ・地盤沈下量、地下水位の観測 15箇所

【参考】2017年度末時点

- ・工業用水法に基づく許可件数 77件
- ・地下水採取量報告徴収対象件数 1,347件

【環境管理室 06-6210-9579】

IV 施策推進に当たっての視点

2019 年度の施策・事業の例示と取組指標

環境関連産業の成長促進

■新エネルギー産業電池関連創出事業

[23,207 千円]

(目的)

大阪・関西の電池関連産業（蓄電池、水素・燃料電池等）のポテンシャルを活かし、技術力ある府内中小企業等による研究開発や実証実験などの取組みを支援することにより、先進的な製品やサービス等の事業化を加速し、大阪発の新たな事業創出を促進すること。

加えて、エネルギー産業の進展と密接な関わりを持つ AI、IoT、ロボットなど第4次産業革命関連ビジネスについても、実証実験に伴う実証場所・モニター等の調整や実施に係る経費などを支援することで、商品化・事業化に向けた課題解決や検証等を後押しし、事業化に向けた精度を高め、新エネルギー関連及び AI・IoT 関連ビジネス等における大阪企業のビジネスチャンスにつなげること。

(内容)

- ・府内企業に対する開発支援補助

府内企業が取り組む、電池や電池の材料、電池関連装置、蓄電池を活用したロボットをはじめとする製品の開発・実証実験等に要する経費を一部補助します。

- ・府内で実施する実証実験補助

AI、IoT や新エネルギー関連技術の実証実験を府内で実施する場合において、運搬費、仮設費、保険料等の経費を一部補助します。

<2019 年度の実施指標>

- ・採択企業毎に 2 回以上／年のフォロー
- ・製品化 1 件以上／年



農業用マルチコプターの
高出力バッテリー

【産業創造課 06-6210-9295】

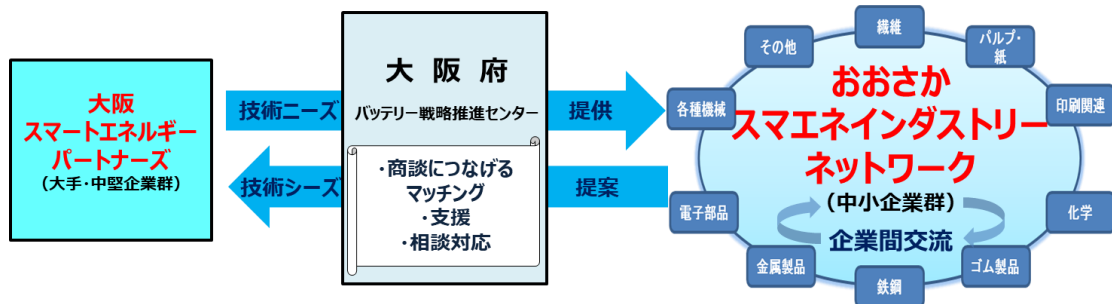
(目的)

成長が期待されているスマートエネルギー分野で、府内中小・ベンチャー企業の優れた技術力を活かしていくため、オープンイノベーションの各種コーディネートを通じ、参入を目指す意欲的な中小・ベンチャー企業の支援を行うことで、この分野への参入促進及びビジネス拡大を図ること。

(内容)

【オープンイノベーションのコーディネート】

- ・スマートエネルギー関連の大手・中堅企業（パートナー企業）で構成するプラットフォーム「大阪スマートエネルギーパートナーズ」を運営。中小・ベンチャー企業の技術提案をパートナー企業につなげることで、オープンイノベーションをコーディネートする。
- ・企業ネットワークやスマートエネルギー関連技術の知見を有する専門アドバイザー等がパートナー企業の技術ニーズを聞き取り、中小企業等の技術提案につなげるクローズド型のコーディネートに加え、フルオープン型やセミオープン型のニーズ説明会を開催するなどコーディネート手法を多様化する。
- ・スマートエネルギー分野に関する技術力を有する中小企業や、同分野への参入をめざす中小企業を集中的かつ継続的に支援するための仕組み（プラットフォーム）として「おおさかスマエインダストリーネットワーク」を設置し、中小企業の強みや技術シーズを把握の上、技術ニーズを持つ大手・中堅企業とのビジネス機会や中小企業間での交流の場を創出することより、中小企業の新規参入やビジネス拡大に繋げる。



<2019 年度の取組指標>

- ・企業訪問件数 100 件/年
- ・おおさかスマエインダストリーネットワークの登録数 100 件

【産業創造課 06-6210-9295】

地域主権の確立・広域連携の推進

■市町村への権限移譲における技術的支援

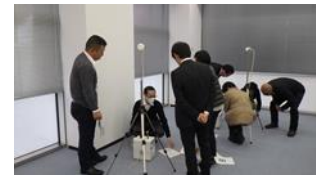
[- 千円]

(目的)

府民に身近な自治体である市町村が、地域の実情に応じて、自らの責任と判断のもと、環境対策を実施できるよう、「大阪発“地方分権改革”ビジョン改訂版」(2017年3月)に基づき、府が有する環境分野の規制権限の市町村への移譲を進めること。

(内容)

府から移譲する権限を各市町村が適切かつ円滑に行使できるよう、府は、ヒアリング等により各市町村の要望の把握や情報交換に努め、統一的な法令の運用・解釈の提示、市町村職員を対象にした研修会・勉強会の開催、研修生の受け入れ等、各市町村の要望に応じた技術的支援を行います。



市町村職員を対象にした
実務研修

<2019年度の取組指標>

市町村を対象にした技術的支援

- ・ 権限移譲市町村を集めての連絡会議を実施
- ・ 市町村からの希望があれば、研修生を受け入れ
- ・ 実務研修の実施 5回程度

【参考】2017年度実績

- ・ 市町村連絡会議の開催 5回
- ・ 研修生の受け入れの実施
- ・ 実務研修の実施 8回

【環境管理室 06-6210-9581】

■関西広域連合における広域的な環境保全対策の推進（広域環境保全）

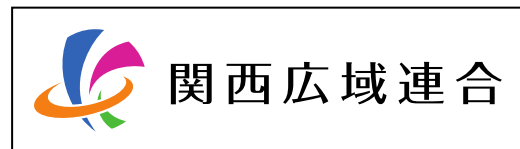
[17,101 千円]

(目的)

関西広域連合での温室効果ガス削減のための取組みや府県を越えた鳥獣保護管理の取組み等の広域的な環境保全の対策を推進すること。

(内容)

地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西を目指すため、「再生可能エネルギーの拡大と低炭素社会づくりの推進」、「自然共生型社会づくりの推進」、「循環型社会づくりの推進」、「環境人材育成の推進」の取組みを実施します。



関西広域連合シンボルマーク

<2019年度の取組指標>

広域環境保全計画に基づき、下記分野について取組みを進める。

(再生可能エネルギーの拡大と低炭素社会づくりの推進)

- ・ 再生可能エネルギーの導入促進
- ・ 住民・事業者啓発
- ・ 次世代自動車普及促進

(自然共生型社会づくりの推進)

- ・ 関西地域カワウ広域管理計画の推進
- ・ 広域連携による鳥獣被害対策の推進
- ・ 生物多様性に関する情報の共有および流域での取組みによる生態系サービスの維持・向上

(循環型社会づくりの推進)

- ・ 3R等の統一取組(マイボトル運動等)の展開

(環境人材育成の推進)

- ・ 人材育成施策の広域展開

【地域主権課 06-6941-1705】

【産業創造課 06-6210-9485】

【エネルギー政策課 06-6210-9287】

【循環型社会推進室 06-6210-9567】

【環境管理室 06-6210-9586】

【動物愛護畜産課 06-6210-9619】

V その他（共通的事項）

2019 年度の施策・事業の例示と取組指標

府自らの事務事業活動における環境配慮

■府庁の省エネ行動への取組み

[167 千円]

（目的）

府自らの事務・事業に伴う環境負荷を軽減すること。

（内容）

「大阪府環境管理基本方針」に基づき、ふちょうエコ課計簿を活用して、PDCA を実施するなど、環境マネジメントシステムの運用に組織的に取り組みます。

〈2019 年度の取組指標〉

- ・ふちょうエコ課計簿を活用した所属単位での取組みの促進
 - ・内部環境監査実施所属数 30 所属程度
- 【参考】2017 年度実績
- ・内部環境監査実施所属数 30 所属

【エネルギー政策課 06-6210-9549】

環境影響評価制度の推進

■環境影響評価制度

[801 千円]

（目的）

環境影響評価法及び大阪府環境影響評価条例に基づき環境アセスメント手続を行うことにより、大規模事業に係る環境保全について、適正な配慮がなされることを確保すること。

（内容）

学識経験者により構成される環境影響評価審査会の調査審議が円滑に行われるよう事務局として同審査会を適切に運営します。また、環境影響評価法等の対象事業について、環境影響評価図書の作成を指導するとともに、事後調査報告書の提出を受けて対象事業の実施による環境影響及び環境保全対策の履行状況を確認し、必要に応じ事業者が環境保全についての措置を講じるよう求めます。



環境影響評価審査会による
事業計画地の現地調査

〈2019 年度の取組指標〉

- ・環境配慮の事前検討やわかりやすい環境影響評価図書の作成等に関する事業者への適切な指導
- 【参考】2017 年度実績
- ・環境影響配慮書の審査 1 事業
 - ・環境影響方法書の審査 1 事業
 - ・事後調査報告書の縦覧 8 事業

【環境管理室 06-6210-9580】

■大気汚染常時監視

[156,690 千円]

(目的)

府域の大気汚染状況の常時監視、分析を行い、環境基準の適否など環境の現状を把握するとともに、健康被害等の未然防止を図ること。

(内容)

大気汚染測定局を整備するとともに国設測定局の維持管理を受託し、大気汚染状況を連続的に監視し、環境基準の適否を評価、公表します。また、光化学スモッグ注意報等の発令、周知を行います。

微小粒子状物質（PM2.5）について、常時監視及び成分分析を行い、環境の現状を把握します（成分分析は、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所により実施）。

長期間の暴露により健康被害が懸念される有害大気汚染物質について、汚染状況の把握のための調査を実施します（分析は、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所により実施）。

健康被害が懸念される石綿について、大気中濃度を経年的に監視します。

〈2019年度の取組指標〉

- ・大気汚染常時監視 27 局（国設局 2 局を含む）
- ・微小粒子状物質監視 25 局（国設局 2 局を含む）、成分分析 2 地点
- ・有害大気汚染物質モニタリング 6 地点
- ・石綿環境モニタリング 4 地点

【参考】2017 年度実績

- ・大気汚染常時監視局 28 局（国設局 2 局を含む）
- ・微小粒子状物質監視 26 局（国設局 2 局を含む）、成分分析 2 地点
- ・有害大気汚染物質モニタリング 7 地点
- ・石綿環境モニタリング 4 地点



大気汚染の自動測定機

【環境管理室 06-6210-9621】

■公共用水域常時監視

[60,726 千円]

(目的)

公共用水域及び地下水の水質を常時監視し、環境基準の適否など環境の現状を把握すること。

また、環境省からの受託により大阪湾の水質等の調査を実施すること。

(内容)

河川及び海域における水質等の常時監視を行い、環境基準の適否を評価、公表します。

地下水質の常時監視（概況調査、継続監視調査、汚染井戸周辺地区調査）を行い、環境基準の適否を評価、公表します。

環境省からの受託により、大阪湾を含む瀬戸内海における水質汚濁、富栄養化の実態を広域的かつ統一的に把握するための調査のうち、大阪湾の調査を行います。

<2019年度の取組指標>

- ・河川（水質 57 地点、底質 11 地点）
- ・海域（水質 15 地点、底質 5 地点）
- ・地下水質（概況調査 23 地点、継続監視調査 51 地点）
- ・環境省受託調査 大阪湾海域（水質 7 地点、底質 2 地点、マクロベントス（底生生物）2 地点）

【参考】2017年度実績

- ・河川（水質 57 地点、底質 9 地点）
- ・海域（水質 15 地点、底質 5 地点）
- ・地下水（概況調査 24 地点、継続監視調査 51 地点）
- ・環境省受託調査 大阪湾海域（水質 7 地点、底質 2 地点、マクロベントス（底生生物）2 地点）



河川の調査風景

【環境管理室 06-6210-9621】

■ダイオキシン類常時監視

[13,585 千円]

(目的)

ダイオキシン類について、府内の環境状況を継続的に把握すること。

(内容)

ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、大気、河川・海域（水質、底質）、地下水質、土壌のダイオキシン類の常時監視を行い、府内の汚染状況を把握します。

<2019年度の取組指標>

- ・大気 10 地点、河川水質・底質 21 地点、海域水質・底質 5 地点、地下水質 10 地点、土壌 10 地点

【参考】2017年度実績

- ・大気 11 地点、河川水質・底質 22 地点、海域水質・底質 5 地点、地下水質 10 地点、土壌 10 地点



大気試料の採取風景

【環境管理室 06-6210-9621】

■公害審査会

[290 千円]

(目的)

公害紛争処理法に基づき、知事の附属機関として公害に係る紛争について調停、あっせん、仲裁を行い、府域の紛争解決に取り組むこと。

(内容)

公害審査会は、府民、事業者等から公害紛争処理法に基づく調停申請があれば、当事者同士の話し合いによる紛争の解決を図るため、「調停委員会」を設置して迅速かつ適正に手続きを進めます。

また、公害審査会全体会議を開催し、審査会委員が係属中の公害調停の進捗状況について意見交換を行います。



公害審査会全体会議
(年 2 回開催予定)

<2019 年度 of 取組指標>

- ・公害紛争処理法に基づく申請があれば中立公正な立場から、紛争の解決を図ります。

【参考】(2018 年 12 月末現在)

- ・2018 年度 係属中 4 件 終結 4 件
- ・2018 年度 新規受付件数 5 件

【環境管理室 06-6210-9580】